

3

189

東 泉 園 書 館

一 冊	八 九 號	七 架	三 函	屬	類
--------	-------------	--------	--------	---	---

陸軍士官學校編纂
兵要地誌

大日本之部
越後佐渡
卷之四十一
卷之四十二

NO 900

陸軍士官學校編纂

兵要地誌

大日本之部

内外兵事新聞局 蔵

兵要地誌 大日本之部卷之四十一 目錄

越後國誌

總論

山論

西脈

中脈

東脈

水論

灌域ノ區劃

信濃河以西諸川ノ灌域

信濃河ノ灌域

本河ノ水路

一丁

二丁

二丁

六丁

十丁

十二丁

十二丁

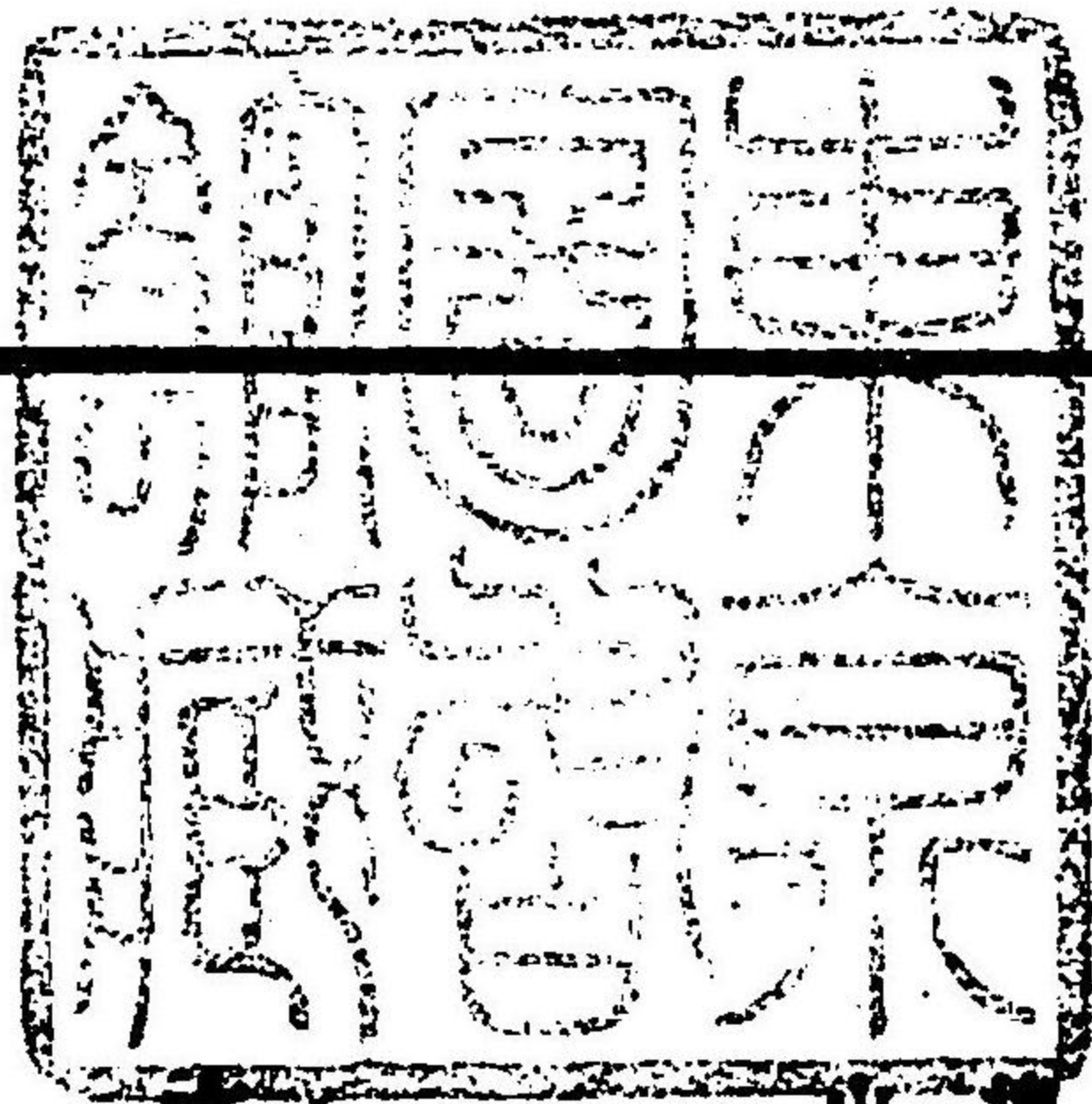
十九丁

兵要地誌

日本部

越後國誌

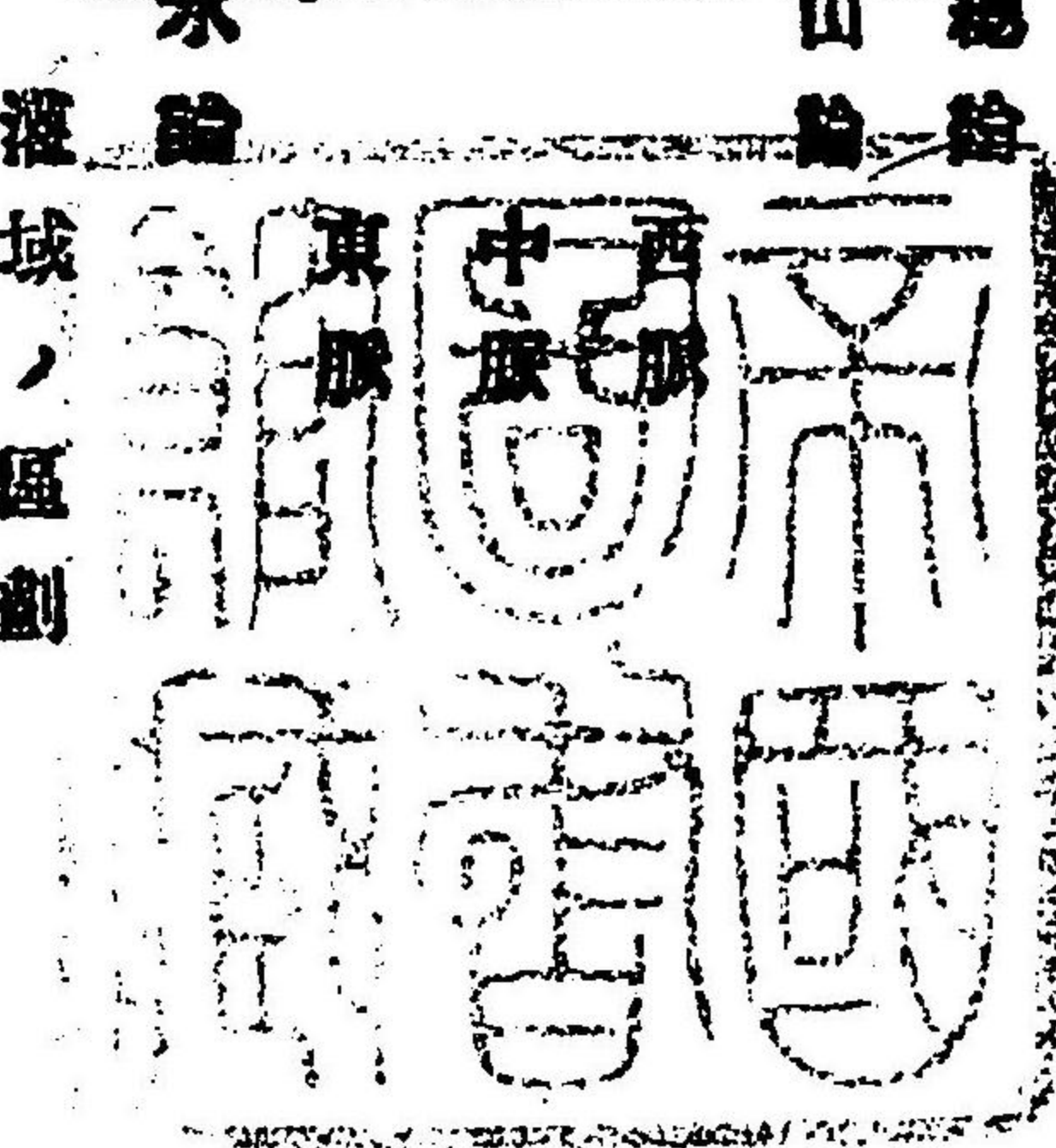
No 9007



兵要地誌

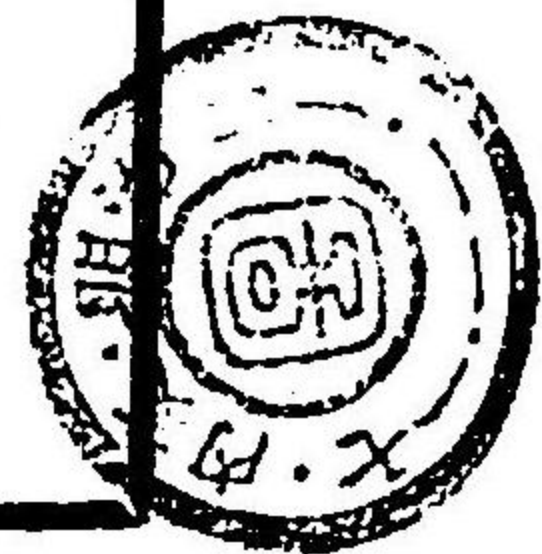
大日本之部卷之四十一 目錄

越後國誌



水	山	東	中	西	總
澁	輪	部	部	部	給
澁	澁	澁	澁	澁	澁
澁	澁	澁	澁	澁	澁

十九	十二	十二	十六	二	二	一
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



兵要地誌

日本部

越後國誌

右朝流	二十三丁
左朝流	二十五丁
信濃川以東諸川ノ濶域	二十六丁
交通路	三十二丁
沿革零史	三十七丁

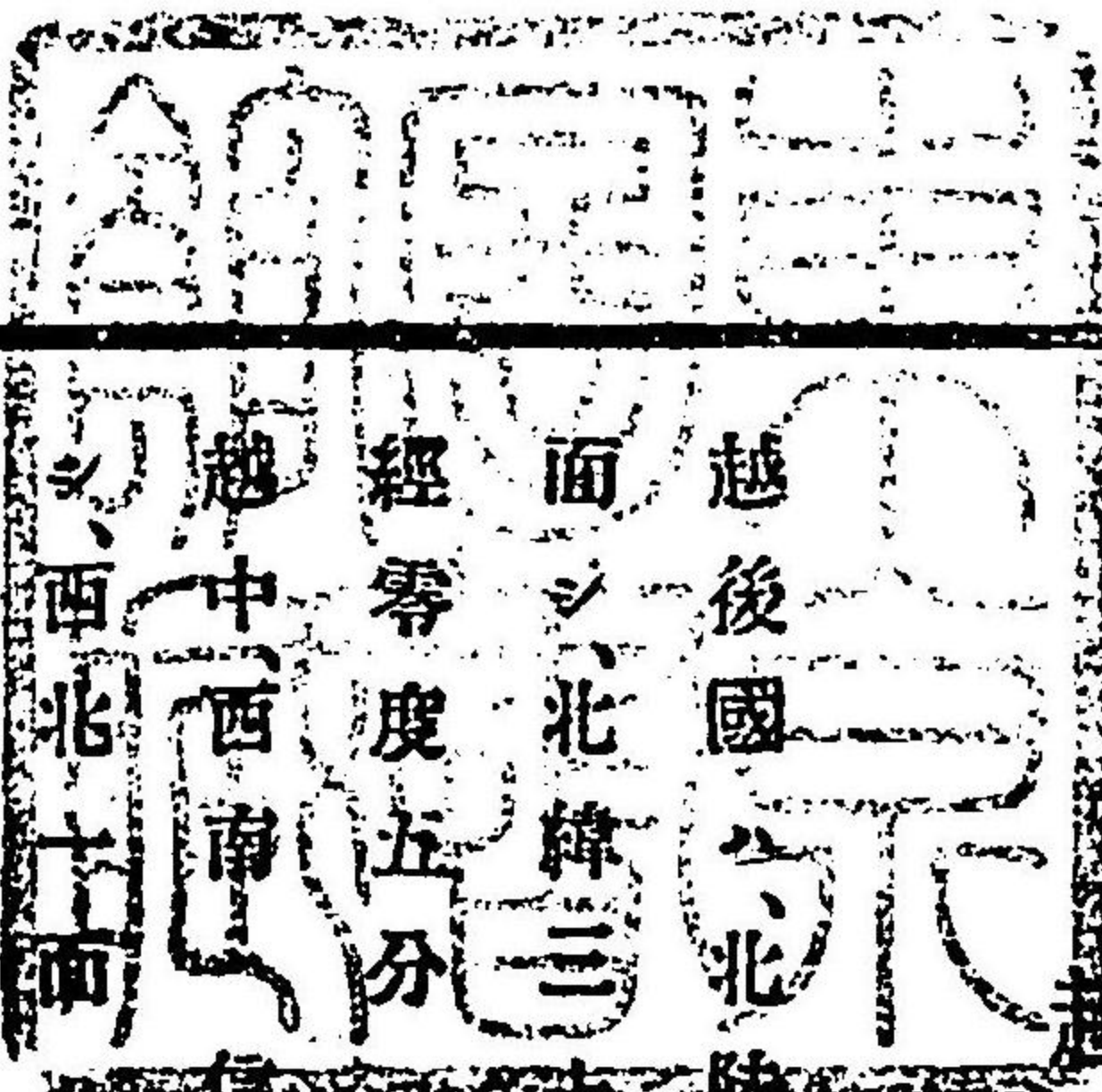
兵要地誌 大日本之部卷之四十一

陸軍教授三木信近 纂述

越後國誌

總論

越後國ハ北陸道ノ東北ニ在テ、東山道ニ背シ、日本海ニ面シ、北緯三十六度五十九分ヨリ三十八度二十九分、東經零度五分ヨリ西經二度二分ノ間ニ涉ル、其疆界、西ハ越中、西南ハ信濃、東南ハ上野、東ハ岩代、東北ハ羽前ニ接シ、西北ハ海ニ臨ミ、廣袤、東西約六十里、南北約十七里、之ヲ劃シテ七郡トス、岩船郡ハ北隅ニ位シ、蒲原郡ハ最大郡ニシテ、岩船ノ南ニ在リ、三島郡ハ蒲原ノ西ニ在テ、海ニ面ス、古志郡ハ蒲原ノ南ニ在リ、三島ノ東ニ在リ、刈羽郡



ハ三島ノ西南ニ在リ、魚沼郡ハ刈羽ノ東南、古志ノ南ニ在リ、頸城郡ハ西南隅ノ大部ナリ、蒲原ヲ分ツテ新潟區東・西・南・北・中五郡トシ、魚沼ヲ分ツテ南・北・中三郡トシ、頸城ヲ分ツテ東・西・中三郡トス、都テ一區十五郡、人口一百四十七萬四千三百六十明治十四年、地勢ハ全國ノ形、恰蝙蝠ノ翼ヲ張ルカ如ク、陸羽ノ大山脈、東北ヨリ來リ、蜿蜒其背ヲ擁シ、中央ハ、原野廣行、洪流縱橫、運輸便テ極メ、土壤膏腴、物產富賑、機織ニ巧ミニシテ、生理常ニ優ナリ、氣候ハ、酷暑約九十五度、極寒約二十五度、冬春ノ間、積雪丈余、麓下路ヲ通シ、河水橋行スヘシ、

物産ノ主要ナル者、鑛物ハ銅、鉛、瑪瑙、石灰、石炭、石腦油、植物ハ米、穀、茶、葉、藍、烟草、梨、半夏、薄荷、動物ハ熊、羚羊、蛙、八

目鱈、鮭、鱒、鱒、鱒、魚、鱒、鰻、鰻、鴨、製造食物ハ菓子、水飴、甘露梅、乾河豚、乾鱒、乾鱒、刺鱒、鱒、田、蘇、鱒、脊、割、製造物ハ生絲、麻、苧、白、練、綾、絲、織、龍、紋、精、好、平、絹、綿、細、絹、縮、絹、布、縮、木、綿、白、木、綿、絞、木、綿、麻、布、紙、元、結、水、引、銅、器、鐵、器、鑄、管、漆、器、履、物、蓆、簾、竹、器、箒、傘、足、袋、トス、

山論

本國ノ國境ハ、大山環列、群峯參陸、以テ天然ノ境域ヲ畫ス、恰郭壁ヲ繞ラスカ如シ、此山脈、數多ノ枝派ヲ岐出シ、國內ニ蟠結ス、此諸山ハ、國內ノ小川ヲ發スルニ過キス、大河ハ、皆源ヲ隣國ニ取ル、其最ナル者、信濃河ハ信濃ヨリ來リ、阿賀河ハ岩代ヨリ至リ、以テ國境ノ山脈ヲ三大節ニ大別ス、西脈・中脈・東脈是ナリ、左ニ此三山脈、及之

ヨリ分出スル岐脈ヲ説叙セントス

西脈

西脈又分テ三節トス、姫川・關川ノ二水之ヲ切斷シ、二凹
 口ヲ開ケハナリ、其第一節ノ山脈ハ、袴腰嶽ニ起テ、北ヨ
 リ南ニ直リ、越中境ヲ劃シ、槍嶽ニ至リ、折レテ東ニ向ヒ、
 信濃境ヲ劃シ、姫川ノ凹口ニ盡ク、之ヲ連華山ト惣稱ス、
 脈中ノ高山ヲ雪倉嶽トス、越中境ニ在リ、海岸ヲ距ル遠
 カラス、朝日嶽トス、其南ニ連ル、槍嶽トス、本州・越中・信濃
 三國ニ跨ル、土人此三嶽ヲ惣稱シテ連華三本嶽ト云フ、
 積雪漫々終歲絶フルヲナシ、第二節ノ山脈ハ、姫川ノ凹
 口ニ起テ、西北ヨリ東南ニ綿亘シ、信濃境ヲ劃シ、關川ノ
 凹口ニ盡ク、脈中ノ高山ヲ雨飾山トス、姫川ノ出ル凹口

連華山

雪倉嶽

朝日嶽

槍嶽

雨飾山

金山

乙妻山

斑尾山

菱嶽

雁ヶ嶽

市振古戦場

ノ東邊ニ兀立ス、金山天信、天狗原ト云フ之ヲトス、其東ニ在リ、
 乙妻山トス、其東南ニ在リ、此脈ハ信濃ニ入テ黒姫山ニ
 連ナルナリ、第三節ノ山脈ハ、關川ノ凹口ニ起リ、斑尾山
 ニ至テ急ニ隆起シ、初、東北ニ向ヒ、次テ東南ニ轉シ、以テ
 國內ニ彎入シ、信濃河ノ凹口ニ至テ盡ク、脈中ノ高山ヲ
 斑尾山トス、關川凹口ノ東邊ニ在リ、其凹口ヲ隔テ、信
 濃ノ黒姫山ト對峙ス、菱嶽・雁ヶ嶽トス、二山相連ナリ、此脈
 ノ東端ニ聳フ、西脈ヲ踰ル過路數條アリ、左ニ枚舉ス
 第一 北陸道ハ、海岸ニ沿ヒ山脚ヲ通ス、市振驛西頸郡ヨ
 リ境村越中郡ニ達ス、國道第廿一號ナリ、市振驛ニ舊、關
 門ヲ置ク、蓋、本國西境ノ鎖鑰タレハナリ、故ニ古來屢
 戰場ト爲ル、承久ノ亂ニ、北條朝時東軍ヲ率テ西上ス、

薄水城址

官軍ノ將宮崎定範・越中ヨリ出テ、戰ヒ敗ラル、永正六年、長尾爲景ノ上杉定憲ト戰ヒシモ此地ナリ、天正十三年、豊臣秀吉・佐々成政ヲ降シ、越中ヲ取リ、自使者ト稱シ、薄水城ニ至リ、城將須賀某ヲ見、告クルニ實ヲ以テス云々、薄水城一作薄水ノ墟址ハ此地ニ在リ、

第二 湯原峠ハ、山坊村西頸郡ヨリ、來馬驛ニ出ツ、糸魚川ヨリ、姫川ノ左岸ニ沿テ、浜リ、信州松本ニ至ル縣道ノ通スル處ナリ

第三 大綱峠ハ、姫川ノ右岸山口村西頸郡ヨリ、大綱村信濃郡ニ出ツ、捷徑ナリ

第四 關川越ハ、關川驛中頸郡ヨリ、野尻驛信濃郡ニ出ツ、關川ノ凹谷ヲ通スル者ニシテ、新潟ヨリ、信濃ヲ經テ、

割ヶ嶽

大田切小田切ノ險

信玄陣地

東京ニ至ル國道第五ナリ、道路關川ノ左岸ニ沿テ、妙高山ノ山根ヲ上下、變曲ス、大田切・小田切ノ險アリ、信濃ヨリ本國ニ入ルノ門闕ナリ、戰國ノ時、沿道關川驛ノ近傍、割ヶ嶽ニ寨ヲ築キ、信州武田ノ兵ニ備フ、永祿四年、上杉謙信上洛ス、武田信玄其虛ニ乘シ、其將・原美濃等ヲシテ之ヲ攻陷シ、城壁ヲ破毀セシム、守將・小岩嶽圖之助之ニ死ス、又大田切ニ、信玄陣所ト名シ、ル舊蹟アリ、元龜三年、武田信玄本國ニ侵入シ、此地ニ駐屯セシカ、謙信謀ル所アルヲ以テ敢テ應セス、信玄遂ニ退クト云フ、天正十年、織田信長・信州海津ノ城主・森長一ヲシテ、大田切ヨリ入テ、芋川城ヲ陷レ、春日山城ヲ脅シ、以テ景勝當時中ニ出テ、柴ノ肘ヲ掣メシム

第五 松倉越ハ、一ニ外様越ト云フ、長澤村中頸郡ヨリ、富倉驛水内郡下ニ出ツ、高田ヨリ關川ノ右朝流、長澤川チ沂リ、飯山水内郡下ニ至ル捷路ナリ

第六 羽倉越ハ、寺石村沼中魚沼郡ヨリ、森村水内郡下ニ出ツ、十日町沼中魚沼郡ヨリ信濃河ニ沿テ沂リ、飯山ニ至ル縣道ナリ

右ノ外、捷徑數條アリト雖也、皆鳥路戰徑ニ過キス西脈ヨリ支出シ、國內ニ蟠結スル岐脈甚多シ、左ニ之ヲ説叙セン

白鳥山
犬ヶ嶽
明星ヶ嶽
黒姫山

第一節ノ岐山ハ、北ニ白鳥山一名山嶺ヶ嶽アリ、海岸ニ峙ツ、其南ニ犬ヶ嶽・明星ヶ嶽アリ、青海川ト姫川ノ朝流、小瀧川トチ分隔ス、其餘派、海岸ニ近ツキ再隆起ス、之ヲ黒姫山

聖ヶ嶽
焼山
火打山
不動山

又古志シノ嶽ト名ク、又其南ニ聖ヶ嶽アリ、姫川ノ朝流、小瀧大所ノ二川チ隔ツ、第二節ノ山脈中、金山ヨリ岐出シテ、國內ニ蟠結スル者ハ、西ヨリ東ニ向ッテ綿亘ス、焼山・火打山・不動山等ノ高山此岐脈中ニ連ナリ、以テ海川・早川・能生川・名立川ノ諸水ト、有馬川・關川及關川左朝流ノ諸水トチ左右ニ分流シ、西頸城ト中頸城トノ郡界チ劃シ、其山嘴ノ延テ海ニ入ルチ鳥首岬ト云フ、火打山ノ東南ニ妙高山兀立シ、雲際ニ聳フ、關川其東南ノ麓チ回流ス、焼山・火打山・妙高山ハ、共ニ火山ナリ、第三節ノ山脈亦數多ノ岐山チ支出シ、關川ノ右朝流、保倉川ノ左朝流及澁海川ノ朝流間ニ延伸シ、凸凹參差、數多ノ溪谷チ開ク、谷中火井・油井尤多シ、村落山間ニ星散シ、居民農務ノ外、余業ナ

妙高山

ク、且南方・大山ヲ帯フルヲ以テ、降雪最多ク、初冬ヨリ春
末ニ至ル迄、堆雪層々、半歳間殆ト穴居スルモノ、如シ
ト云フ、就中其支脈ノ大ナル者ハ、菱嶽ヨリ岐出シ、保倉
澁海ノ二水間ニ蜿蜒ス、之ヲ横過スル通路一條アリ、安
塚東頸郡ヨリ十日町中魚郡ニ至ル縣道ナリ、此支脈ハ、信濃
川ノ灌域ヲ限リ、遙逝北走シテ、漸ク低ク、刈羽郡ニ入ル
ニ及テ再ニ隆起ス、之ヲ八石山ト名ケ、鯖石川ト澁海川ト
ヲ分隔ス、八石山ヨリ北ハ、又漸ク卑低トナリ、復ニ丘陵ノ
綿亘起伏スル者ニ過キス、遂ニ椎谷、大崎ニ盡ク、此支脈、
鯖石川ノ水源ニ於テ、更ニ枝脈ヲ分テ、西北ニ伸出シ、亦
刈羽郡ニ入ルニ及テ急ニ突起シ、兀然秀拔ス、之ヲ兜巾
山ト名ツク、此山ハ小山核ヲ爲シ、小枝派ヲ諸方ニ出ス、

兜巾山

八石山

即其西走スル者ハ、保倉川ニ平行シテ中頸城ト東頸城
トノ郡界ヲ劃ス、其西北ニ向フ者ハ、中頸城ト刈羽トノ
郡界ヲ畫シ、海岸ニ至テ盡ク、米山ノ秀峯其中ニ峙ツ、海
岸ニ北陸道アリ、其山腹ヲ上下蛇行ス、之ヲ米山峠ト云
フ。天文十六年、長尾晴景、長尾景虎ト戦ヒシ古戰場ナリ、
北走スル者ハ、鯖石川ニ平行ス、黒姫山其中ニ峭立ス、鯖
石川ヲ隔テ、其東ニ秀聳スル者ヲ八石山ト名ク、所謂
刈羽ノ三山トハ、黒姫山・米山・八石山是ナリ、最後ノ岐山
ニ鷹峯ト名ツク者アリ、之ヨリ又一支脈ヲ北發ス、此支
脈ハ、信濃河ト其潮流、澁海川トヲ分隔シ、暫ク東頸城ト
中魚沼トノ郡界ヲ劃シ、蟠蜿蜒逝漸ク卑ク、遂ニ小千谷
近傍ニ至テ盡ク、又十日町中魚郡ヨリ安塚東頸郡ニ至ル縣

米山

米山峠
古戰場

黒姫山

道アリ、之ヲ横過ス、

中脈

中脈亦分テ二節トス、其第一節ノ山脈ハ、國境線ト合致セサル處アリ、山脈ハ信濃ニ入り、國境ハ暫信濃河ノ右朝流ナル、境川ヲ以テ之ヲ畫シ、其上流ニシテ、國境ノ信濃ニ凸出スル點ニ高倉山アリ、次テ國境線・國內ニ向テ凹入シ、中津川ヲ挾テ苗場山アリ、古來其名殊ニ著シ、次テ國境東北ニ轉シ、信濃・上野ノ交界點ニ凸出ス、其凸點ニ三峯山アリ、共ニ信濃河ノ東周脈ノ餘派タリ、三峯山以東ハ、峻嶽崔嵬、大山脈ヲ爲シ、本土ノ中央總水界線ニ屬シ、利根川上流ノ水ト魚野川ノ水トヲ分流シ、兼テ國境ヲ畫シ、東北ニ向テ綿亘シ、以テ鶴嶽ニ至ル、是ニ於テ

高倉山

苗場山

三峯山

御月山

大明神嶽

御神樂嶽

朝草山

鞍掛山

赤柴山

此第一節ノ山脈ハ、中央水界線ヲ去テ國內ニ入り、阿賀河ノ上流ト魚野川ノ右朝流トヲ分隔シ、以テ大鳥未丈嶽ニ至ル、脈中ノ峻山ヲ御月山トス、鶴嶽ノ東ニ在リ、大明神嶽トス、又其東ニ在リ、御神樂嶽トス、又其東ニ連ナル、第二節ノ山脈ハ、大鳥未丈嶽ニ起リ、初東北ニ向テ蜿蜒シ、破間川ノ上流ト阿賀河ノ上流トヲ分隔シ、埴足山ニ至テ方向ヲ東南ニ轉シ、高陽山ニ至テ、再東北ニ向ヒ、以テ岩代ノ國境ヲ畫シ、阿賀河ノ本國ニ入ルノ凹口ニ至テ盡シ、脈中ノ高山ヲ朝草山トス、大鳥未丈嶽ノ東北ニ在リ、鞍掛山トス、又其東北ニ在リ、赤柴山トス、埴足山ノ東南ニ在リ、中脈ヲ隘ル過路亦數條アリ、左ニ之ヲ枚舉ス

第一 三國峠ハ、淡貝驛沼南郡魚沼ヨリ永井驛上野郡野呂ニ出ツ、三國街道ノ通スル處ニシテ、明治十八年迄ハ國道ナリシカ、此年國道線ノ變換アリ、今ハ縣道トス、謙信ノ關東ニ橫行スル、毎ニ此道ヨリス、又本國ノ米鹽ヲ關東ニ輸スモ、亦皆此道ヨリス、山路羊腸固ヨリ車ヲ通セズ、其運送皆駄馬ニ依ル、故ニ山間ノ驛次ニ居ル者ハ、駄馬ヲ以テ生業ノ資ト爲スコト、恰農家ノ田地ニ於ケルカ如シ、天正十年、澁川一益兵ヲ遣テ本國ヲ侵ス、上杉氏ノ將長伊賀、栗林肥前等、迎撃テ之ヲ此山中ニ破ル、往時ハ新舊二道アリシカ、後舊道廢路ニ屬シ、新道ノミヲ通スト云フ

第二 清水谷越ハ、清水村沼南郡魚沼ヨリ湯楡會村上野郡利根ニ

出ツ、六日町ヨリ登川ニ沿テ沂リ、沼田上野郡利根ニ通ス、往時ハ一條ノ樵路ニ過キヤリシカ、明治十四年七月、新道改築ニ着手、十八年八月、功ヲ竣ヘ、實ニ良道ト爲リ、諸車往來自由ナルニ至ル、今ハ東京ヨリ、直ニ新潟港ニ達スル國道第八トス

第三 六十里越ハ、破間川ノ朝流、太平川ヲ沂リ、岩代ニ出ツ、樵路ニ過キス、入跡到ル甚稀ナリ

第四 八十里越ハ、吉平村沼南郡蒲原ヨリ叶津村岩代郡南津ニ出ツ、五十里川及其朝流、牛尾川ヲ沂リ、若松ニ通スル里道ナリ

第五 鳥井峠ハ、鳥井村東海郡沼津ヨリ群岡村沼代郡河ニ出ツ、新潟ヨリ若松ニ至ル本道ニシテ、縣道ナリ、往時ハ頗

險阻ノ名アリシカ、近來福島縣大土工ヲ興シ道路ヲ
開鑿シ、方今ハ諸車ヲ通スル自由ナリ
中脈ヨリ支出シ、國內ニ蜿蜒起伏スル岐脈亦甚多シ、左
ニ之ヲ説示セン

第一節ノ山脈、亦數多ノ岐山ヲ北發ス、就中清津川ノ上
流ト、魚野川ノ上流トノ間ニ聳起スル者ヲ毛無山ト名
シ、此岐山北ニ向テ垂レ、三國街道ヲ挾テ再隆起ス、之ヲ
湯澤嶽ト名シ、其余派、信濃河ト魚野川トノ間ニ伸出シ
テ、二水ノ天然分界ヲ爲シ、南魚沼ト中魚沼トノ郡界ヲ
畫シ、魚野川ノ源滙傍ニ至テ盡ク、之ヲ横過スル通路二
條アリ、一ヲ朽登峠ト云フ、信濃河畔ノ十日町ヨリ、魚野
川邊ノ鹽澤ニ通ス、本國刈羽郡ヨリ、東京ニ出ツルノ捷

毛無山

湯澤嶽

朽登峠

青沼峠

大劍多山

飯士山

卷機山
金城山

前楢山
嶽

路ナリ、一ヲ青沼峠ト云フ、十日町ヨリ六日町ニ通ス、縣
道ナリ、魚野川ノ本流ト、其朝流登川トノ間ニ大劍多山・
飯士山ノ聳拔スルアリ、登川以北ノ岐山ハ、大抵本脈ニ
直角ヲ爲ス、故ニ皆長カラス、從テ溪谷深カラス、流水皆
短シ、其最峻高ナル者ヲ卷機山・金城山トス、登川ト五十
澤川トノ間ニアリ、八海山トス、宇田澤川ト氷無川トノ
間ニ在リ、又御月山ヨリ、岐分スル者ハ、稍長シテ北ニ走
リ、中嶽・鬼嶽其中ニ峭立ス、又大明神嶽ヨリスル者ハ、峯
前者ニ平行シ、奥權現前權現ノ二嶽、其中ニ秀拔ス、又第
二節ノ山脈ヨリ、國內ニ盤紆スル者甚多シ、其大鳥未丈
嶽ヨリ出ツル者ハ、黒俣川ト平石川トノ間ニ起伏シ、峻峯
ヲ前楢嶽ト名シ、其東ニ長大ナル者二條アリ、其一ハ、鞍

守門嶽 金倉山 五十嵐川 堀足山 關見嶽 粟ヶ嶽 袴腰嶽 白山

懸山ヨリ分レテ西走シ、破間川ト五十嵐川、及刈谷田川トナ分隔シ、北魚沼ト南蒲原、及古志トノ郡界ヲ畫ス、峻山ハ、守門嶽アリ、北魚沼・南蒲原・古志ノ三郡ニ跨ル、鏝山・金倉山アリ、長岡ノ東南ニ聳フ、此岐脈、赤子派ヲ左右ニ支出シ、破間・刈谷田・五十嵐三川ノ朝流間ニ延伸ス、其最大ナル者ハ、守門嶽ヨリ分レテ西北ニ向ヒ、刈谷田川ト五十嵐川トノ間ニ綿亘シ、古志ト南蒲原トノ郡界ヲ畫ス、其二ハ、堀足山ヨリ分レテ西北ニ向ヒ、關見嶽ニ至テ又二條ニ岐分ス、其一ハ西ニ向ヒ、五十嵐川ト出早川、及加茂川トノ間ニ伸出シ、南蒲原ト中蒲原トノ郡界ヲ畫ス、粟ヶ嶽・袴腰嶽ノ秀峯、其中ニ峙立ス、粟ヶ嶽ノ北ニ連ナル山ヲ白山ト名ク、能代川ノ水源ニ係ル、其余派ハ、急ニ低

五劍谷嶽

菅山

飯盛山

クナリテ、判然水界線ヲ爲サスト雖、之ヲ以テ信濃河湜域ノ東界トス、又關見嶽ノ北ニ秀ルハ、五劍谷嶽ナリ、其二ハ、北ニ向ヒ彎曲シテ、早出川ニ平行シテ、中蒲原ト東蒲原トノ郡界ヲ畫シ、阿賀河邊ニ至テ盡ク、其尾端ニ兀立スルハ、菅名山ナリ、此岐脈ヲ超ヘ、村松ヨリ津川ニ至ル捷路アリ、寂莫險難ナル獸徑ニ遇キス、其他ハ東蒲原ニ在テ、常浪川ノ朝流間ニ延出ス、

東脈

東脈亦分テ二節トス、其第一節ノ山脈ハ、阿賀河ノ凹谷ニ起リ、初東北ニ向テ綿亘シ、以テ岩代ノ國境ヲ畫シ、飯盛山ニ至テ方向ヲ北ニ轉シ、以テ羽前ノ國境ヲ劃シ、荒川ノ凹口ニ至テ盡ク、脈中ノ高山ヲ飯盛嶽トス、本國・岩

三國嶽

以中嶽

代・羽前ノ三國ニ跨ル、三國嶽トス其北ニ在リ、帆差嶽ト
ス又其北ニ在リ、第二節ノ山脈ハ、全ク三面川ノ瀝域ヲ
繞劃ス、高山崇峯屏列シ、就中以東嶽最峻高ナリ、一ニ越
高根ト稱ス、古來其名殊ニ著シ、全脈殆ト通路ヲ絶テ、荒
川ノ凹口、及海岸ニ近キ、二三ノ徑路ヲ通スルノミ、左
之ヲ掲ク

第一 尾折峠ハ、上關村岩船ヨリ、玉川村羽前ニ出ツ、

荒川ニ沿テ、浜リ、米澤羽前ニ至ル道路ニシテ、米澤街道
ト稱ス、縣道ナリ

第二 石栗越ハ、石栗村岩船ヨリ荒澤羽前ニ出ツ、樵
路ニ過キス

第三 小名邊越ハ、中村岩船ヨリ小名邊村羽前ニ出

ツ、山路ナリ

第四 鼠關越ハ、中村ヨリ同名川ヲ下リ、海岸ニ出テ、府
屋村岩船ヲ經テ鼠關羽前ニ出ツ、縣道ナリ、庄内街

道ト名ク

東脈亦數多ノ岐脈ヲ支出シ、國內ニ盤紆ス、其飯豐山ヨ
リ分ル、者ハ、西ニ亘リ、東浦原ト北浦原トノ郡界ヲ劃
シ、大日嶽・鳥帽子嶽・棒懸山ノ諸山ヲ領ス、其尾端、北浦原
郡ニ入り、再ニ隆起ス、之ヲ菱嶽・五頭山ト稱ス、此岐脈ヲ踰
フル過路アリ、飯訪峠ト名ク、若松街道ノ通スル處ナリ、
戊辰ノ役、越後口ノ會兵、盛シテ津川ニ保ム、官軍進ンテ
此峠ニ陣シ、津川ヲ攻ムルノ據點トセリ、棒懸山ノ北ニ、
高山ノ峙フルアリ、壹場嶽ト云フ、又三國嶽羽前ヨリ登

大日嶽

鳥帽子嶽

棒懸山

五頭山

飯訪峠

壹場嶽

三國嶽

スル岐脈ハ、二山三笠山ニ一王子嶽・風倉山ヲ領スル一ノ
 山嶽ニシテ、其大勢亦東ヨリ西ニ向ヒ、加治川ト貽内川
 トナ分隴ス、又帆差嶽ヨリ發スル子坂ハ、西北ニ向ヒ、貽
 内川ト荒川トナ分隴シ、北蒲原ト岩船トノ郡界ヲ畫ス、
 山脈外ニシテ、國內ニ崛起スル高山甚多シ、光兔山ハ、荒
 川ノ右岸ニ兀立シ、鷲巢山ハ、三面川ノ左岸ニ秀拔シ、大
 島屋嶽・鳴海山・駒嶽・日倉山・蝶山・天蓋山ハ、三面川ノ右岸
 ニシテ、其潮流高根川ノ左右ニ聳拔ス、又虚空瀨山・月山・
 高倉山・葡萄山・鳥帽子嶽ノ諸山ハ、三面河口ノ北ニシテ、
 海邊ニ聳起ス、庄内街道其東麓ヲ通ス、葡萄嶽ノ險アリ、
 其西坡ハ、急ニ海ニ垂レテ、斷崖絶壁ヲ爲シ、跋渉スヘカ
 ラス、是レ其東麓ヲ迂回スルヲ得サルノ所以ナリ

光兔山

鷲巢山

葡萄嶽

本國ノ高山秀峯ハ、概シテ國境ヲ環擁シテ、脈絡ヲ爲シ、又之
 ヨリ岐出シテ、國內ニ蟠結スル、上ニ記スルカ如シ、其他
 國上・彌彦・角田・ノ三山アリ、右ノ諸山ト懸隔シテ海岸ニ
 兀立シ、佐渡ト相對ス、彌彦山ノ麓ニシテ、舊北陸道ノ通
 スル處ニ、猿馬場ト名シタル地アリ、永正六年九月七日、長
 尾爲景、大須賀・五十嵐・石田等ト戰ヒシ古戰場ナリ

永崎

灌域ノ區別

天然ノ形勢ニ從ヒ、全國ヲ分ツテ三灌域ニ區劃ス、其一、信
 濃河以西・諸川ノ灌域、境川・青森川・早川・能生川・
 川・越前川・石川・其二、信濃河ノ灌域、其川・一ノ荒川・
 川・之ニ屬ス、其三、信濃河ノ灌域、其川・一ノ荒川・
 灌域ニ在リ、川・小荒川・三流・之ニ屬ス、其北是ナリ

信濃河以西諸川ノ流域

信濃河ノ西ニ在テ、海ニ注シ、諸川ハ、關川一名荒川ヲ最
 大ナリトス、而シテ關川ノ西ニ八流、東ニ三流アリ、左ニ
 此諸川ヲ西ヨリ逐次ニ枚舉セントス
 第一 境川ハ、源ヲ越中ニ發シ、國境ニ沿テ北海ノ海ニ
 注ク、古來川ノ中央ヲ以テ境界線ト定ム、故ニ此名アリ、
 北陸道ニ當ル處、船渡ナリ、方今ハ假橋ヲ架ス、然レモ洪
 氷至レハ、忽、橋梁ヲ流スヲ以テ、時アリ假橋アリ、時アリ
 船渡ナリ、境川ヨリ關川ニ至ルノ間ハ、信越界ノ大山脈
 ヨリ支出スル岐山蟠結シ、其岐派ハ、皆北走シテ海ニ盡
 キ、七凹谷ヲ開ク、古來土人ノ謂フ所、西濱七谷是ナリ、今
 井谷ト云ヒ、根知谷ト云ヒ、西海谷ト云ヒ、早川谷ト云ヒ、

西濱七谷

能生谷ト云ヒ、名立谷ト云ヒ、桑取谷ト云フ、一谷一川
 リ、海ニ注ク、皆水源近キヲ以テ、地學ニ謂フ所ノ奔湍ニ
 過キスシテ、平時ハ深淵、潦時ハ怒漲、居民甚、水患ニ困ム
 ト云フ、

第二 青海川ハ、袴腰嶽ヨリ降り、初ハ東流シ、越中境ノ
 諸山ヨリ出ツル諸水ヲ集メ、北ニ折レテ青海驛ノ西ニ
 至リ海ニ注ク、此川ノ流ル、地ヲ今井谷トス、青海村ニ
 勝山故城アリ、上杉氏ノ臣須賀氏、秋山氏ノ壘ナリ、
 青海驛ヨリ市振ニ至ルノ間、五里程、約ニ、外波、歌ノ二驛ア
 リ、名ハ驛ヲ稱スト雖、其實ハ僻阪ノ寒村ニ過キス、此間
 山嶺延テ海汀ニ迫リ、危岩欹疊シ、低濱ハ尖石、路ニ滿テ、
 北陸道其水際ヲ通ス、風起レハ、怒濤天ヲ拍テ、行ヲ絶ツ、

勝山故城

親不知

駒返

其最危險ナル者ヲ親不知市振キト時ハ波ト同ニ在リハス親子相保ツ能駒返道ト青海ト同ニ在リハス故ニトス明治十一年、皇上北巡アリ、新ニ工ヲ興シ新道ヲ鑿通シ、爾來危險ヲ免レシムト云フ、然レハ兵家ノ所謂、驍路ノ狹長且險惡ナル者ニシテ、軍ヲ行ル甚難シ、古ハ寒原ノ險ト稱シ、其名史乘ニ著シ、

第三 姫川ハ、源ヲ信濃ニ發シ、上流ハ信濃山峽ヲ出ルコト及テ、東北ニ流レ、暫ク信越ノ國境ヲ蓄シ、後折レテ稍北ニ向ヒ、根知谷ヲ開ク、西濱七谷中、最長ク且廣シ、流水・糸魚川驛ノ西ヲ過キ、寺島・須澤ノ兩村間ニ至テ海ニ注ク、水路源委ヲ通シ、約二十里、幅約百間アリ、水源高ク、傾斜急ナルヲ以テ、激湍疾ク、本國第一ノ急流トス、絶テ

糸魚川驛

大所川

小瀧川

根知川

橋梁ヲ架ス可ラス、往來常ニ船ヲ用フ、洪水至レハ涉ル可ラス、是亦北陸道中、切所ノ一トス、糸魚川千八百約四ハ、川ノ右岸ニ在ル一驛ナリ、區裁判所・郵便局・郡役所城西頭警察署アリ、舊城塞アリ、初稻葉正成ヲ封シ、後松平直之ヲ封ス、一新ノ際、改メテ清崎藩ト稱セリ、姫川朝流ノ大ナル者三流アリ、一チ大所川トス、信濃及越中ノ國境ナル、大山ヨリ下ル諸水ヲ合シ、山坊ヲ過キテ姫川ニ合ス、二チ小瀧川トス、大所川ニ畧平行シ、上小瀧村ニ至テ姫川ニ合ス、三チ根知川トス、源ヲ信濃ノ山嶽ニ發シ、山口村ヲ過キ、西流シテ姫川ニ合ス

第四 海川ハ、源ヲ燒山ニ發シ、西海谷ヲ流レテ海ニ注ク

不動山故

第五 早川ハ、水源ニアリ、一チ大川トス、燒山ヨリ降り、
 一チ湯川一名前川トス、火打山ヨリ降り、二水土鹽村ニ
 至テ相合シ越村ヲ過ク、村ニ不動山故城アリ、三本木伊
 豫守爲常・同勝藏孝長ノ墟ナリ、次テ更ニ北流シ、梶屋敷
 驛ニ至テ海ニ注キ、早川谷ヲ開ク、
 第六 能生川ハ、源チ火打不動ノ二山ニ發シ、亦北流シ
 テ能生驛千七百約一ニ至テ海ニ注キ、能生谷ヲ開ク、早川
 ト能生川トノ間ニ、權現山アリ、其山脚延テ海中ニ突出
 ス、之ヲ能生岬ト云フ、
 第七 名立川モ、亦源チ不動山ニ發シ、名立驛一千約ニ
 至テ海ニ注キ、名立谷ヲ開ク、流ニ沿テ、東ニ不動山ノ餘
 派ノ蜿蜒スルアリ、延テ海中ニ斗出シ、巉岩崎嶇トシテ

鳥首岬

岬ヲ爲ス、之ヲ鳥首岬ト云フ、烈風暴雨ノ時ハ、舟行尤難
 シ、以上六谷ノ地チ西頸城郡トス

長濱驛

山ノ下

第八 有間川ハ、源チ不動山ノ余派、即チ西頸城ト中頸城
 トノ郡界ナル、岐山ニ發シテ北流シ、有間川驛ニ至テ海
 ニ注キ、桑取谷ヲ開ク、有間川驛ノ東七丁ニ長濱驛アリ、
 北陸道ト、北國街道トノ岐分點ニ臨ム、越中境ヨリ、此地
 ニ至ル間チ惣稱シテ、山下ト云フ、行路二日程、道路險惡、
 土地窮乏、軍ヲ行ル甚難トス
 第九 關川一名荒川ハ、水源ニアリ、一ハ燒山・金山信濃
 在リ、信濃ニテハ、ノ間ニ發ス、之ヲ真川ト名ク、一ハ西侯
 天狗原ト云フ、ハノ間ニ發ス、之ヲ真川ト名ク、一ハ西侯
 嶽ト乙妻山信濃ニトノ間ニ發ス、之ヲ二黒川ト名ク、二
 川共ニ東流シテ、衆多ノ瀧水ヲ集メ、笹峯新田ニ至テ相

越後國志

關川驛

鳥坂城址

高田

高田城

合シ、苗名瀑トナリ、洶涌奔湍、信越ノ國境ヲ畫シ、關川驛ニ至リ、折レテ北ニ向フ、關川驛ハ、北國街道ノ一驛ニシテ、妙高山ノ南麓、信越ノ國境ニ在リ、舊關門アリ、街道川ニ平行シテ、妙高山ノ東麓ヲ通シ、長嶽路ヲ爲ス、關川驛其出口ヲ占メ、信州ヨリ入ルノ門闕ヲ爲ス、控扼ノ地ナリ、驛ノ近傍ニ、鳥坂城ノ墟址アリ、建仁元年、城小太郎資盛、此城ニ據リ反ス、官軍ノ將、佐々木盛綱攻テ之ヲ拔キ、資盛ヲ走ラシ、城寨ヲ撤ス、是ヨリ下流ヲ關川ト稱シテ、數多ノ朝流ヲ受ケ、河身漸ク肥ヘ、以テ關山驛ノ東ヲ流ル、驛ニ鐵道停車場アリ、高田ニ入リ約チ濃瀧ス、城アリ、朝流矢代川ノ源滙ニ在リ、東南二面二川、關川矢ニ據リ、周遑二川ノ水ヲ引ク、慶長十九年、徳川氏諸侯ニ命シテ、築

直江津驛

カシメタル者ニシテ、號關城又鮫ヶ城ト名ク、初、松平忠輝ヲ封シ、後、榊原政永ヲ封ス、市街城ノ南西北三面ヲ繞リ、人家稠密、百貨殷賑、新堀ニ亞ク、始審裁判所、治安裁判所、郵便局、郡役所、中頭警察署、中學校、病院、鐵道停車場、國立銀行、第九百三等アリ、此地南ハ、妙高山巍然雲間ニ聳ユ、東西亦大山環立、僅ニ北方ノ一面ヲ開クノミ、故ニ冬月ハ、寒氣凜烈、雪積丈餘、街巷ヲ埋没シ、對軒相望ムヲ得ス、簷下一線路ヲ通シテ、纜ニ往來スルノミ、高田ヨリ下流ヲ荒川ト稱シ、直江津港ニ至テ、保倉川ト合シ、海ニ注ク、水程約二十里、幅八十間アリ、左岸ニ沿フテ鐵道ヲ布設シ、直江津港ヨリ中山道ノ鐵道線ニ連絡セントス、方今直江津ヨリ關山驛ニ至ル間、既ニ成リ、瀛車ヲ通ス、直江津

日本部

越後國志

十六

東海地誌 卷之七 高田

千人口約七八、高田ノ西北里ニ在リ、船舶幅湊、市街殷賑、電信局、郵便局、鐵道停車場アリ、港頭ニ燈明臺アリ、近海一帶ヲ名古屋ト稱ス、滄溟渺茫、水天相交ルノ際、遙ニ佐渡ヲ望ム、近郊國分寺村ニ國分寺寺八千五百坪アリ、此ヨリ春日山ニ至ルノ間ハ、古國府ノ在ル所ニシテ、御館城ノ墟址アリ、春日山ノ距天正六年、鎌信卒シ、三郎景虎、景勝ト相闘キ、此城ニ據ル、景勝之ヲ攻ム、城中兵寡シ糧乏シ、景虎自殺シ城陷ル、其春日山ハ上杉氏ノ古城址ナリ、麓ニ春日神社、及林泉寺寺五千坪アリ、慶長二年、豐臣秀吉、上杉景勝ヲ會津ニ徙シ、堀秀治ヲ此ニ封ス、同十年、十一書ニト記、徳川家康、諸國ニ命ヅテ、山城ヲ廢止セシム、堀秀治、命ヲ奉シテ城ヲ毀テ、福島今春日ニ移ル、幾ナラス其

名古屋

御館城址

春日山城

野尻川 長澤川 長江川 高城址 大熊川 高城址 曾根田故城 別所川 澤田故城

子忠俊、事ニ坐シ、國除カル、依テ松平忠輝ヲ封シ、今ノ高田ニ移ラシム、關川朝流ヲ受クル甚多シ、爰ニ之ヲ枚舉ス、其一、野尻川右朝ハ、野尻湖ノ漏泄ナリ、關川驛ニ於テ本河ニ合ス、其二、長澤川右朝ハ、信越界ノ山脈ヨリ下リ、長澤村ヲ過キ猿橋村ニ至テ本河ニ合ス、此川松倉越ヲ開シ、其三、長江川左朝ハ、妙高山ヨリ下リ、新井驛ヲ過キテ、朝流片貝川ヲ容レ、本河ニ合ス、片貝川ト本河トノ間、姫川原村ニ高城ノ古跡アリ、城氏ノ墟ナリ、其四大熊川右朝ハ、小流ナリ、中宮山邊ノ二村ヲ過リ、二村間ニ箕冠故城アリ、大熊備前秀朝ノ墟ナリ、次テ曾根田村ヲ過ク、曾根田故城アリ、宮島若狹ノ墟ナリ、其五、別所川右朝ハ、信越界ノ山脈ヨリ下リ、澤田村ヲ過ク、澤田故城アリ、高

東海地誌

日本部

卷之七

十七

矢代川

殿ヶ尾故城

青木故城

岡川

保倉川

安塚

直峯城

橋攝津ノ墟ナリ、高田ノ上ニ至テ本河ニ合ス、其六、矢代川左朝ハ、源ヲ不動火打ノ二山間ニ發シ、東北ニ向テ流レ、宮内村ヲ過ク、殿ヶ尾故城アリ、上杉三郎景虎ノ墟ナリ、次テ青木村ヲ過ク、青木故城アリ、山村正信・山村重信ノ墟ナリ、次テ高田ニ至テ本河ニ合ス、其七、岡川右朝ハ、源ヲ菱嶽山中ノ二湖ニ發シ、西北ニ向テ流レ、高田ニ至テ本河ニ合ス、以上ノ七川ハ、皆溪流ニ過キス、其八、保倉川右朝ハ、潮流中最大ナリ、源ヲ菱嶽ノ山中ニ發シ、初北流シ、大島村ノ東ヲ過ク、此地高田ヨリ十日町ニ至ル縣道ニ臨ム、次テ河流、兜巾山ニ支ヘテ折テ西ニ向ヒ、左ヨリ來ル小黒川ヲ受ク、小黒川ハ、安塚七八口約ヲ過ク、郵便局・郡役所東郡アリ、古直峯城アリ、直峯伊豫ノ墟ナリ、次

雁金山城

三分ヶ原古戰場

柿崎故城

テ河流、同方向ヲ途ヒ石神村ヲ過ク、雁金山故城アリ、佐々權左衛門、上杉氏ノ臣、飯川空之亟ノ墟ナリ、次テ大池・朝日池・鶴池ノ餘水ヲ容レ、飯田川ヲ合スル後、春日新田ノ下ニ至テ、荒川ニ落ツ、其北陸街道ノ横過スル處ニ橋アリ、長三十間餘、黒井橋ト云フ、春日新田ノ對岸ニ、福島城ノ舊趾アリ、又此邊ニ三分ヶ原ト名クル古戰場アリ、大永元年、上杉定憲ノ長尾爲景ト戰ヒシ地ナリ、第十、柿崎川ハ、水源ニアリ、一ハ兜巾山ヨリ發ス、之ヲ吉川ト云フ、一ハ黒岩村ノ小澤畔ヨリ出ツ、之ヲ黒川ト云フ、二川落合村ニ至テ相會シ、北流シテ柿崎村三口約百ニ至リ、海ニ入ル、柿崎村ニ柿崎故城アリ、柿崎氏代々之ニ居レリト云フ、

上條城址

琵琶島城址

柏崎

裁判所

第十二

野倉

谷

八石山

後ノ居城

無ク

柏崎

推谷

第十一 鶴川ハ、兜巾山ト黒姫山トノ間ヨリ出テ、上條

城ノ舊址傍ヲ過ル、上杉定實・上杉義春ノ居城ナリ、次ヲ

琵琶島城ノ舊址傍ヲ過ル、宇佐美定行ノ居城ナリ、次ヲ

柏崎一ノ口約一ノ万ニ至テ海ニ注ク、柏崎ハ海港ナリ、治安

裁判所・電信分局・郵便局・郡役所・羽 警察署・中學校・病院

アリ、海濱ニ番神ノ岬アリ、岬上ニ燈明臺アリ、

第十二 鯖石川一名芥川ハ、源ヲ東頸城郡木和田原田

野倉ノ山中ヨリ發シ、黒姫山ト八石山トノ間ナル、鯖石

谷ヲ流レ、長島鴨ノ二川ヲ合シ、悪田村ニ至テ海ニ注ク、

八石山ノ北麓ニ北條村アリ、北條城ノ舊址アリ、毛利丹

後ノ居城ナリ、是ヨリ以東、此澁域ニハ復川ト稱スルモ

ノ無ク、柏崎ヨリ推谷千ノ口約一ニ至ル迄ノ海岸ハ、概平

荒濱驛

觀音坂古

垣ニシテ砂磧遠ク連ル、其間ニ荒濱驛千ノ口約ニアリ、其

推谷ハ、堀直之ノ治所ナリ、舊陣屋ナリ、驛ノ東ニ急坂ア

リ、觀音坂ト云フ、東周脈ヲ畫スル枝脈ノ余派ナリ、坂路

狹窄之ニ登レハ驛ヲ瞰視スヘシ、永正七年六月、長尾爲

景上杉憲總ト戰テ、之ヲ破リシ古戰場ナリ、近來坂路ヲ

開鑿シ、車行自由ナリ

信濃河ノ澁域

本河ノ水路

信濃河一名千曲河ハ、信濃ヨリ來ル、上流ハ信濃大河ニ

シテ、國內ヲ申流ス、其上流信濃境ヲ出テ、朝流魚野川ヲ

容ル、迨ハ、狹窄ナル長凹谷ヲ縈廻ス、此凹谷ハ長十五

里餘、之ヲ中魚沼郡トス古妻有庄ト稱ス、信州飯山ニ至

ルノ縣道アリ、河ノ右岸ニ沿フ、谷中最著名ノ地ヲ十日町、四ノ口約トス、河ノ右岸ニ枕、谷ノ粗、中央ニ位シ、魚野川ヨリ保倉川ニ通スル縣道ノ交叉點ニ在リ、局地ノ中央陣地ヲ占ム、戊辰ノ役ニ、官軍駐陣ノ之ヲ守レリ、郵便局・郡役所沼田警察署アリ、信濃河此地ヨリ、河舟米船五十大、戦後許ト通シ、舟運ノ便利アルヲ以テ、市街稍見ルヘキアリ、信濃川、川口驛ニ至テ魚野川ヲ受ケ、小千谷八千口約ヲ濶概ス、市街河ノ左岸ニ在リ、諸道ノ輻輳點ニ位ス、戊辰ノ役、長岡ノ未陷ラサル前、賊此地ニ據リ官軍ニ抗ス、産スル所・縮布其名殊ニ高シ、郵便局・郡役所沼田アリ、河ニ船渡アリ、左岸ニ遠ス、左岸ニ覆嶺ニナカアリ、三國街道ノ通スル處ニシテ河信濃ヲ右ニシ、山金倉ヲ左ニシ、長岡第一

十日町

小千谷

覆嶺

妙見驛

藏王山

ノ險要トス、戊辰ノ役、賊此險ニ據リ、長岡ヲ掩フ、官軍之ヲ拔クニ頗苦戰セリト云フ、稍下ニ妙見驛アリ、同役ニ賊兵營ヲ構ヒ官軍ニ抗セシ地ナリ、次テ信濃河、濫海河ヲ受クルノ後、長岡八千口約ニ濶概ス、橋アリ、長二百四十間、長生橋ト云フ、家屋櫛比、始審裁判所・治安裁判所・郵便局・郡役所古志警察署・中學校・病院・國立銀行第六等アリ、近歲新潟ニ往來スル漁船ノ通航ヲ開キヨリ、物貨ノ漕運、旅客ノ送迎、一層便捷ヲ加フ、城アリ、古藏王山城ト稱ス、長尾爲重鎌倉ノ之ニ居レリ、慶長年間、堀直寄ヲ親直之ニ居リ、堀秀治ニ隸ス、徳川氏ニ至リ、初堀直寄ヲ封シ、後牧野忠成ヲ封ス、今ハ廢城ニ屬ス、戊辰ノ役、賊軍本城ニ據リ、兵ヲ近傍ニ出シ、官軍ヲ拒ク、連戰官軍屢敗

與板驛

與板城址

地藏堂

三條驛

ル、已ニシテ官軍之ヲ取テ又失ヒ、最後遂ニ之ヲ復シ、以テ越後口官軍ノ本據トス、是ヨリ賊軍日ニ微ナリ、信濃河、次テ與板千八口約五ヲ濇漑ス、河ノ左岸ニ在リ、長岡ヨリ新潟ニ至ル縣道ニ臨ミ、支路ヲ分テ、出雲崎港ニ達ス、郵便局・郡役所三島警察署アリ、市街大ナラスト、離河ニ額シ、漕運極テ便ナルヲ以テ頗繁盛ナリ、舊城寨アリ、戰國ノ時、上杉氏ノ臣、直江兼續之ニ居リ、徳川氏ニ至リ、初、牧野氏ヲ封シ、後、井伊氏ヲ封ス、今ハ廢城ニ屬ス、信濃河次テ地藏堂千五百約ニ至リ、分レテ北流スル者ヲ西川ト稱ス、本流ハ東ニ曲リ、刈谷田川ヲ合シ、八王子ニ至リ、又一派ヲ分ツ、之ヲ中口川ト稱ス、更ニ東流シテ、五十嵐川ヲ併ス、其濇漑ニ三條驛八千約アリ、漕運便テ極メ、頗繁

島之城址

卷町驛

邑ナリ、郵便局・郡役所南郡警察署アリ、古城寨アリ、島之城ト稱シ、一方ハ五十嵐川ヲ控ヒ、一方ハ信濃川ニ面ス、堅城ノ名アリ、天文十九年、照田常陸介・黒田秀忠等、此城ニ據リ、景虎ヲ拒ム、景虎攻テ之ヲ拔ク、關原役ノ頃、堀直清之ニ治ス、當時本國浪士ノ上杉氏ニ應スル者、不意ニ此城ヲ攻ム、遇直清春日山ニ在リ、城代山中某、苦戰遂ニ之ヲ退ク、其後封ヲ易フル數次、幾ナラス代官所ト爲リ、今ハ塞址ヲ存スルノミ、信濃河次テ加茂川ヲ容ル、ノ後、北ニ向ヒ小須戸町千一口約ニテ過キ、酒屋ニ至テ小阿賀川ヲ受ケ、大野ニ至テ中口川ト合シ、次テ又西川ト會ス、西川ハ、地藏堂ノ下ニ至テ島崎川及圓上寺洞ノ水ヲ受ケ、卷町千二口約ニテ過ク、郵便局・郡役所南郡警察署アリ

リ、次ヲ楊枝濱ノ瀧澤管川ヲ受ク、管川ノ左岸ニ三根山
 アリ、長岡ノ支封、牧野氏ノ治所タリ、文久三年、瀧列ニ入
 リ、一新後、巖岡ト改メ、次ヲ曾根村ト改メ、約ニテ過キ、鏡濱
 二周田濱、大瀧、共一里、水ヲ容レ、内野ト改メ、約ニテ於テ
 一派ヲ分ツ、之ヲ堀切川ト名ク、直ニ海ニ注ク、中ノ口川ハ、
 燕町ト改メ、約ニテ過キ、西浦原ト改メ、中浦原ト改メ、郡界ヲ劃シ、
 新飯田村ト改メ、約ニテ過キ、西ノ流レ、次ヲ白根ト改メ、約ニテ過ク、
 信濃河最後ニ鳥屋野濱ノ水ヲ受ケ、新瀧ノ港口ニ趣キ、
 海ニ入ル、河流ノ長、國境ヨリ凡四十里、水勢浩濶ニシテ、
 舟楫極テ便ナリ、其河道ノ通スル地、長岡以北ハ、平坦廣
 漠、澁漑普ク至リ、土壤膏腴、物産頗豊カナリ、
 新瀧ハ、五港ノ一ニシテ、外國ノ互市場ナリ、北陸第一ノ

中ノ口川

堀切川

都會ニシテ、新瀧縣廳本國及佐波全ノ在ル所ナリ、戶數
 約九千九百、人口約三萬五千六百、家屋稠密、街衢四通、溝
 渠縱橫、運輸至便、始審裁判所、治安裁判所、税關、電信分局、
 郵便局、區役所、新潟警察署、新潟學校、醫學校、病院、國立銀
 行第四等アリ、港ノ西岸丘上ニ燈臺アリ、以テ舟子ノ針路
 ニ便ス、港灣甚良ナラスト雖、夏秋ノ際、商舶輻湊シ、港内
 特ニ繁華ナリ、街ノ西端常盤丘ニ招魂社アリ、戊辰ノ役、
 官軍忠死ノ人ヲ祭ル、明治十九年、一大橋ヲ信濃河ニ架
 シ、萬代橋ト名ク、木橋ナリ、對岸沼垂ニ達ス、其長、四百三
 十間、幅四間、橋脚惣テ四十二基、每脚抗五本ヲ列フ、之ヲ
 望メハ宛長虹ノ大空ニ横ルカ如シ、
 此灌域内新瀧以西ノ海岸ハ、彌彦山ニ至ル迄ハ、沙阜綿

内野陸道

寺泊

出雲崎

亘起伏シ、蒼松森列、北陸道ニ沿ヒ、以テ海風潮氣ノ障屏
 ナ爲ス、此間北陸道ニ内野・赤塚・竹町・彌彦ノ四驛アリ、内
 野ニ陰溝アリ、文化年間ニ創テ通ス、惡水ノ漏口アリ、其
 德、百餘村ニ及フト云フ、赤塚ニ佐瀨ノ瀦沼アリ、漁佃ノ
 利多シ、彌彦ニ彌彦山アリ、海邊ニ聳拔ス、彌彦ヨリ寺泊
 千八百約五ニ至ルノ間ハ、道路彌彦山ノ東南麓ヲ通ス、然
 レモ甚シキ坂路ヲ爲サス、寺泊以西ハ沙濱ニ屬シ、街道
 海岸ニ沿フ、出雲崎千八百約九石地千二百約二ノ二驛アリ、
 其寺泊・出雲崎ハ共ニ海港ナリ、本國ヨリ佐渡ニ往來ス
 ル者、必ス針路ヲ此二港ニ取ル
 新潟以東、阿賀河口ニ至ル迄ノ海岸モ、亦沙阜波狀ヲ爲
 シ、稚松蒼々處々ニ點在ス、河ヲ隔テ、沼垂千七百約六ア

リ、一小邑ナリ、鑿渠アリ信濃・阿賀兩河口ヲ連絡ス

右朝流

第一 中津川ハ、源ヲ上野國吾妻郡ノ北境ナル山間ニ
 發シ、信濃國高井郡ノ東境ヲ流レ、國境ニ入テ北ニ流レ、
 蘆崎驛ニ至テ本河ニ合ス
 第二 清津川ハ、水源ニアリ、一ハ三峯・本澤ノ兩山間ヨ
 リ下ル、之ヲ元清津ト云フ、三國街道ノ古道ヲ開ク、一ハ
 東侯・稻包ノ兩山間ヨリ降ル、之ヲ東清津ト云フ、三國街
 道ノ新道ヲ開ク、二水相合シ、湯澤・蘆生ノ兩山間ナル、狹
 谷ヲ北流シ、馬場驛ノ上ニ至テ本河ニ合ス
 第三 魚野川、一名魚沼川、又上田川ハ、源ヲ千倉嶽ニ發
 シテ北流シ、北ニ向テ長岡谷ヲ開ク、之ヲ南魚沼郡トス、

古、上田庄ト稱ス、三國街道、川ノ左岸ニ沿フ、左岸ハ湯澤山ノ余派、近ク迫ルヲ以テ、朝流ノ大ナル者寡シ、右岸ハ上野國境ノ山脈、漸ク遠カルヲ以テ、之ヨリ發スル朝流甚多シ、其上流ハ、湯澤千人口約一、鹽澤千人口約一、二驛ヲ過キ、登川ヲ受クルノ後、六日町千人口約一ヲ濶シ、郵便局郡役所沼南郡魚警察署アリ、此地三國街道ニ在テ、北・信濃河畔ノ十日町ニ通スル縣道ト、南・清水越ヲ經テ、上野ニ出ツル國道トノ交叉點ニ臨ミ、樞要ノ點ヲ占ム、此ヨリ河流、舟楫ヲ通シ、運輸ニ便ス、其長岡ニ至ル水路凡十六里、之ヲ下ル其速キ一八時間ヲ出テスシテ達ス、大永元年、長尾房景、上杉定憲ト戰ヒシ古戰場ナリ、永祿年間、上杉謙信、長尾政景ヲシテ此地ヲ守ラシム、當時城築アリ、

六日町驛

坂戸城址

長森原

浦佐驛

堀内驛

坂戸城ト云フ、險峻ナル山城ナリ、後、甘糟氏ヲ封ス、徳川氏ニ至リ、堀氏ニ屬ス、今ハ墟址ヲ存スルノミ、魚野川次ヲ五十澤・三國・宇田澤ノ三朝流ヲ容ル、宇田澤川ノ右岸ニ長森村アリ、其左岸ニ此村ニ對シテ長森原アリ、古ハ曠漠タル原野ナリシカ、今ハ開墾シ田畑ト爲ル、永正七年、長尾爲景、上杉顯定ト戰ヒシ古戰場ナリ、次テ浦佐約一千ヲ過ク、左岸ニアリ、橋アリ、右岸ニ通ス、次テ朝流七百無佐梨ノ二水ヲ容レ、小出島千七百ヲ過ク、右岸ニ在リ、次テ四日市村ニ至テ、朝流破間川ト會シ、折レテ西北ニ向ヒ、堀内驛千八百ヲ過ク、此驛ノ下ニ於テ三國街道、川ヲ横過ス、古渡船アリ、和南津渡ト云フ、今ハ橋ヲ架ス、次テ川口驛ニ至テ、信濃河ニ合ス、水路約二十一里、

破間川

幅八十間、破間川ハ、朝流中最大ナル者トス、水源ニアリ、
 一ハ、鞍懸山ヨリ下リ西流ス、之ヲ平石川ト名シ、一ハ、大明神山ヨリ出テ北流ス、之ヲ黒俣川ト名シ、二水大榑山ニ至テ相會シ、東南ニ向テ流レ、四日市村ニ終ル、四日市村ノ對岸ニ築址アリ、古、下倉城ト稱ス、蓋、會津ヨリ六十里越テ超テ、來リ侵スヲ防クニ供ス、關原ノ役ニ上杉氏ノ臣、直江兼續會津ニ在テ、本國ノ浪士ヲ救峻シ、此城ヲ攻メシム、城將小倉主膳細秀治健闘之ニ死ス

第四 刈谷田川ハ、源ヲ守門守門嶽ノ布引瀑ニ發シ、古志郡東部ノ諸水ヲ集メ、北流シテ榑尾榑尾千九百ニテ過ル、山間ノ一小邑ナリ、郵便局アリ、居民養蠶機織ニ巧ナリ、古城寨アリ、舞鶴城ト稱ス、大關兵部ト云フ者、舞鶴ニ築リ築

下倉城址

榑尾

舞鶴城址

見附

シト云フ、景虎幼若國亂ヲ避ケ逃レテ此城ニ匿ル、當時本庄慶秀、本城ニ主タリ、之ヲ庇護ス、天文十二年、三條城主、長尾俊景等、兵ニ將トシ來リ攻ム、景虎防戰年ヲ連テ、遂ニ大ニ之ヲ敗リ俊景ヲ斬ル、同十六年、長尾晴景ノ族、政景、又大舉シテ來リ攻ム、景虎防戰、其引去ルヲ峻テ、擊テ之ヲ走ラス、戊辰ノ役、官軍長岡城ヲ陷フル、城主牧野氏、間行此地ニ遁レ、尋テ會津ニ投ス、此地ヨリ下流西ニ曲リ、見附見附千八口約五ヲ過ク、縣道ノ交叉點ヲ占ム、要地ナリ、永祿十一年、本庄繁長叛シ、上杉謙信之ヲ征シ、此地ニ戰フ、河流次テ今町今町三千口約ヲ過キ、尾崎村ニ至リ、信濃河ニ合ス

第五 五十嵐川ハ、源ヲ間見間見嶽ノ南ナル、埴足山ニ發シ、

初山間ヲ西流シ、初流中川ヲ容レテ、漸ク西北ニ曲リ、牛尾川ヲ受クル後、森町・鹿峠ヲ過キテ、三條ニ至リ、信濃川ニ合ス、森町ヨリ牛尾川ヲ沂リテ、吉平村ニ至リ、八十里越テ超ヘテ岩代ニ出ツル里道アリ

第六 加茂川ハ、小川ナリ、源ヲ粟嶽ノ北ニ發シ、西北ニ流レテ、加茂千人約六テ過キテ、信濃河ニ合ス

左朝流

第一 澁海川ハ、源ヲ菱嶽ノ東、深坂峠ニ發シ、中川・東川ノ二水ヲ合シ、北流シテ、犬伏城東郡ヲ過ク、此地信濃河畔ノ十日町ヨリ高田ニ至ル、縣道ニ臨ム、次テ流水中魚沼郡ノ西隅ヲ貫キ、刈羽郡ニ入テ、八石山ノ東麓ヲ北流シ、三島郡ニ入テ、塚山ヲ過ク、此地小千谷ヨリ、柏崎ニ至ル

塚山

縣道ニ臨ム、次テ片貝千人五百約四ノ下ニ至リ、信濃河ニ合ス、

第二 黒川ハ、源ヲ刈羽郡黒川村ノ山中ニ發シ、三島郡ニ入テ東北ニ流レ、宮本・關原・新田千人五百約一脇町一千七約百ヲ過キ、與板ニ至テ信濃河ニ合ス、
第三 島崎川ハ、小流ナリ、源ヲ三島郡島崎村ノ近傍ニ發シ、牧花村ニ至テ西川ニ入ル

信濃川以東諸川灌域

信濃川ノ東ニ在テ、直ニ海ニ朝スル河ノ大ナル者三流アリ、左ニ之ヲ説叙セントス

第一 阿賀河又阿賀野ハ、源ヲ上野・岩代・越後三國ノ交界點ナル尾瀬沼ニ發シ、其上流ハ、本國北魚沼郡ノ東南

諸山ヨリ下ル、大白澤川、小湯、俣川、中、俣川、北、俣川等ノ溪
 流ヲ集メテ北流シ、以テ岩代、越後ノ國界ヲ劃シ、更ニ東
 流シテ岩代ニ入リ、岩代ノ諸川ヲ合シテ、漸ク大河ト爲
 リ、岩代誌ニ濛河シテ西ニ向ヒ、再ニ本國東蒲原郡ニ來リ、
 津川千人約ニ濛河ス、常浪川ノ阿賀川ニ相滙スル處
 ニ在リ、山間ノ一繁邑ナリ、舟筏常ニ輻輳シ、旅客此地ヨ
 リ舟ニ乘リ、一日ニシテ新瀉ニ達ス、郡役所東蒲原郡警察署
 アリ、東蒲原郡ハ、域内羣峯參差、平壤少ナク、三十二村ア
 リ、山間ニ星散ス、津川ハ、郡ノ略中央ニ位シ、若松街道ニ
 臨ミ、岩代ニ出入スルノ門闕ヲリ、舊關門ヲ設ケ、會津藩
 ヨリ戍兵ヲ置ケリ、會津ノ越後ニ對スル樞要點ナレハ
 ナリ、街道ノ川ヲ横過スル處ニ船渡アリ、北ニ諏訪峠ア

津川

嶺山城

リ、甚險ナリ、此險及巨流、此街道ニ在テ重複障礙ヲ爲シ、
 大雪ノ時ハ行ヲ絶ツ、古來俗ニ會津ノ津川ト云フ、蓋シ
 上杉景勝、封ヲ會津ニ徙セシ以來、會津領ニ屬セシヲ以
 テナリ、廢藩置縣ノ時、沿襲ニ因テ、東蒲原一郡ヲ尙若松
 縣ニ屬シ、後之ヲ福島縣ニ編ス、明治十九年五月、勅令ア
 リ之ヲ新瀉縣ノ管轄トス、潮流常浪川アリ、此地ニ於テ
 本河ニ相會ス、其隅角ニ丘陵ノ急ニ隆起スルアリ、麒麟
 山ト稱ス、古城址ナリ、慶長年間、上杉氏ノ將、藤田信吉之
 ニ居リ、關原役ノ起ル前、信吉家ヲ挈シ、奔テ徳川氏ニ歸
 ス、因テ直江兼續、會津ニ在テ越後ノ浪士ヲ煽動シ、此城
 ニ據リ、以テ堀氏ノ侵襲ニ備ヘシカ、遂ニ其拔ク所ト爲
 レリ、又戊辰ノ役、越後口ノ官軍、大舉シテ既ニ赤谷石間

ナ拔キ進ンテ諏訪峠ニ陣ス、會兵退テ此驛ニ據リ、川阿
 川ヲ沮テ相持シ、數日官軍ヲ窘マシメタリ、次テ阿賀川、
 菱嶽・菅名ノ二山間ヲ過キテ、平地ニ出テ、北蒲原ト中蒲
 原トノ郡界ヲ劃シ、保田町千人約一ヲ灌漑シ、羽賀村ニ
 至テ早出川ヲ容レ、右岸ニ分田千四百ヲ存ス、津川ヨリ舟行シ、
 新發田ニ趣ク者ハ、此地ニ上陸ス、次テ互賀村ニ至テ一
 派ヲ分ツ、之ヲ小阿賀川ト名ツク、西北ニ向テ流レ信濃
 河ニ合ス、本流ハ更ニ北シ、新發田川・賀治川ノ二水ヲ併
 シ、松崎ニ至テ海ニ注ク、國境ヨリ水路二十有余里、幅廣
 キ所ハ八丁アリ、阿賀川ノ末流ト、信濃河ノ末流トノ間
 ハ、沼澤滙集、鑿渠縱横、運漕ニ便シ、灌漑ニ利ス、土味膏腴、
 穀果咸宜シ、阿賀川本國ニ入テ、數多ノ朝流ヲ受ク、今其

分田

最ナル者ヲ掲ク、其一、實川右朝ハ、源ヲ飯豐山ニ發シ、西
 南ニ流レテ本河ニ入ル、其二、常浪川左朝ハ、源ヲ赤柴山
 ニ發シ、北流シテ數多ノ溪流ヲ合シ、津川驛ノ東ヲ過キ
 テ本河ニ注ク、其三、早出川左朝ハ、源ヲ關見嶽ニ發シ、上
 杉川・仙見川等ノ諸水ヲ集メ、河内谷ト稱スル僻地ヲ流
 レ、五泉千人約四ヲ過キ、市街農商雜居シ、養蠶織織ニ巧
 ナリ、市場ナリ、昔甘糟清長此地ニ住ス、今ノ鎮守八幡宮
 ハ其樂址ナリ、次テ下條ヲ過ク、下條駿河ノ居リシ地ナ
 リ、羽賀村ニ至リ本河ニ合ス、其四、能代川左朝ハ、小流ナ
 リ、源ヲ白山ノ西北ニ發シ、西北ニ向テ流レ、村松千人約
 百ヲ過ク、古野本大膳ノ居リシ地ナリ、城アリ、今ハ廢城
 ニ屬ス、元和三年、堀直時封テ此地ニ受ケシ以來、堀氏歴

五泉

村松

新津町

世ノ治所タリ、戊辰ノ役、官軍攻テ此城ヲ拔ク、城主堀直
 休、走テ津川ニ投ス、能代川村松ノ下ニ於テ、瀧谷、戸倉等
 ノ諸川ヲ合シ、新津千八百一ヲ過ク、郵便局郡役所中郡
 警察署アリ、昔新津義門ノ居城タリ、其前ハ平賀盛義ノ
 後胤、歴世新津ノ保ヲ領シ、之ニ居レリト云フ、能代川新
 津ノ下ニ至テ、小阿賀川ニ合ス、其五、加治川右朝ハ、源ヲ
 飯豊山ニ發シ、西流シテ、右ヨリスル内野倉川ヲ合シ、次
 テ左ヨリスル淡流數條ヲ受ク、其一水、若松街道ニ沿フ
 テ流ル、者ハ、赤谷赤谷驛ノ東ヲ過ク、赤谷ノ西北五丁ニ山
 内驛アリ、此二驛間ニ、舊會津領ト新發田領トノ境界ア
 リ、山内ハ新發田領ノ關門、赤谷ハ會津領ノ關門ニシテ、
 共ニ關趾アリ、其赤谷ハ、會津口ノ鎖鑰ニシテ、要害ノ地

赤谷驛
山内驛

五十公野

新發田町

タリ、壽永元年、城四郎長茂、城築テ此地ニ築キ、之ニ據リ、
 後、源頼朝ニ降ル、天正年間ニ、小田切三河之ニ居リ、景勝
 ニ反ス、景勝攻テ之ヲ陷レ、小田切ヲ誅ス、關原ノ役ニ、堀
 氏ノ將、堀直政等、本國浪士ノ上杉氏ニ應シ、亂ヲ爲ス者
 ナリ、此地ニ擊ツテ、大ニ之ヲ敗レリ、戊辰ノ役ニ、越後口ノ
 會兵、既ニ盛シ、退テ此關ヲ扼ス、官軍之ヲ攻ム、會兵逆擊
 頗、劇戰アリ、加治川次テ支派ヲ分ツ、之ヲ新發田川ト云
 フ、粗、本流ニ平行シテ、五十公野千八百一ヲ過ル、築址ア
 リ、山築ナリ、五十公野堀五郎之ニ居リ、天正年間ニ、小田
 切等ト共ニ、新發田因幡守治長ニ應シ、景勝ノ滅ス所ト
 ナル、新發田川次テ新發田ノ近傍ヲ過ク、新發田一八口約
 百千六ハ、新潟ノ東七里ニ在リ、仙臺鎮臺第三師管ノ分營

第十六、始審裁判所、治安裁判所、郡役所北蒲郡、郵便局、警察署、病院、國立銀立第十六等アリ、市街繁盛、本國屈指ノ一都會ナリ、城アリ平地ニ在リ、壘地今尙存ス、陸軍ノ兵營トナル、古ハ新發田氏歷世ノ唐城ナリ、天正年間、新發田因幡守治長、此城ニ據テ景勝ニ反ス、景勝屢之ヲ征シ、天正十五年、城遂ニ陥ル、慶長年間、豐臣秀吉、上杉景勝ヲ會津ニ移シ、堀秀治ヲ本國ニ封スルニ及ソテ、溝口伯耆守秀勝ヲ本城ニ封ス、以來溝口氏歷世之ニ治ス、戊辰ノ役、城主溝口氏、仙臺會津兵ノ脅迫スル所ト爲リ、援兵數百ヲ出ス、既ニシテ官軍ニ歸順ス、是ニ於テ官軍之ニ據リ、津川口ヲ攻ムルノ支據點トス、新發田近傍ハ大抵平地ニシテ、田園肥沃、海近ク山遠カラサルヲ以テ、衣食ノ資甚

豐カナリ、新發田川、次テ内島見ヲ過ク、此驛ニ對シテ左岸ニ木崎アリ、新發田ヨリ新瀉ニ往來スル者、必ス船路ヲ爰ニ取ル、木崎ノ下ニ至テ、新井郷川ヲ受ク、福島潟ノ漏溝ナリ、福島潟ハ、一名越湖ト云フ、周回凡五里、本國第一ノ大湖ナリ、湖ノ北一里ニ氷原千八百アリ、郵便局アリ、杉原某ノ住セシ塞址アリ、新井郷川、葛塚千八百ヲ過キテ、後、新發田川ニ合シ、松崎ニ至テ、本流ト共ニ阿賀川ニ入ル、加治ノ本流ハ、三日市千八百ニテ過ク、此地ヨリ舟楫ヲ通スヘシ、古城塞アリ、佐々木城ト稱ス、佐々木盛綱ノ居城ナリ、後、加治氏世々之ニ居リ、景勝ノ時ニ至リ、景虎輝子ニ應シ亡フ、後、享保九年、徳川氏此地ヲ柳澤時陸ニ賜ヒ、其子孫世々之ニ治ス、陣屋ナリ、加治川

福島潟
 水原
 佐々木城址

次テ新發田ノ東ヲ過キテ、西ニ向ヒ、松崎ニ至テ阿賀川ニ注シ、松崎ヨリ東、荒川ノ河口ニ至ル迄ノ海岸ハ、砂阜連綿起伏シテ波狀ヲ呈ス、是レ加治川ノ直ニ海ニ入ラス、彎流シテ阿賀川ニ會スル所以ナリ、海濱ニ村落ノ大ナル者、藤塚濱千七百約ニ村松濱千一口約一荒井濱千三百約一アリ、居民專ラ漁ヲ業トス
第二 荒川ハ、羽前ヨリ來リ、其上流ハ羽國境ノ山脈中ニ凹處ヲ開キ、米澤街道ヲ通ス、河流街道ニ沿フテ西シ、下川口村ニ至テ、帆差嶽ヨリ出ツル大石川ヲ容レ、桃崎ト鹽谷トノ間ニ於テ海ニ注シ、國境ヨリ河口ニ至ル九里、濶百間、下流ニ至リ、胎内川ヲ受クルヲ以テ、河口頓ニ增濶シ、船舶ノ碇泊ニ便ス、之ヲ海老江港、又荒川港ト名

海老江港

ツク、米穀ヲ輸出スル最盛ナリ、皆之ヲ北海道ニ送ルト云フ、潮流胎内川ハ、源ヲ二ツ山ニ發シ、西北ニ向テ流レ、左岸ヲ距ル一里許ニ中條村アリ、上杉氏ノ臣、中條與四郎ノ居リシ寨趾アリ、中條ト三日市トノ間ニ、金山村アリ、近傍ニ願文山ノ寨趾アリ、承久ノ亂ニ河勾家賢ト云フ者、此山ニ塞ヲ構ヒ、遙カニ官軍ニ應ス、東軍ノ將、佐々木信實擊テ之ヲ破ル、胎内川ノ右岸ニ黒川アリ、米澤街道ノ岐點ヲ占ム、享保九年、徳川氏此地ヲ柳澤經隆ニ賜ヒ、其子孫世々之ニ治ス、陣屋ナリ、胎内川、次テ乙村ニ至リ乙川ト稱シ、岩船北浦原ノ郡界ヲ畫シ、海老江ニ終ル、第三 三面川ハ、源ヲ以東嶽ニ發シ、亦西流シテ赤澤・猿俣・長津・高根・門前等ノ諸川ヲ合シ、瀬瀧港ニ入ル、水路二

中條村

願文山

十里余、潤七十間アリ、其潮流門前川ハ、村上町ノ東ヲ過
 ヲ、村上千人約七百ハ、餘一ノ繁邑ニシテ、治安裁
 判所・郵便局・郡役所郡岩船・警察署・國立銀行第七等アリ、瀬
 波港ニ接近シ、山ニ據リ海ヲ控フルヲ以テ、頗ル地ノ利
 ナ占メ、且羽前道ニ臨ミ、三面川ヲ防禦線ト爲ス、貴要ノ
 陣地タリ、城アリ丘陵上ニ建ツ、初本庄ト稱シ、本庄繁長
 之ニ居レリ、慶長年間、村上義明ヲ封シ、村上ト改稱ス、其
 後屢易封アリ、最後五年保内藤氏ヲ封ス、此川ノ濇域ハ、岩
 船郡ノ過半ヲ領シ、高山嵩嶽參差シ、平地ハ十ノ三ニ過
 キス、荒川ノ河口ヨリ、此川ノ河口ニ至ル迄、海岸モ亦概
 シテ云ヘハ、低濱ニシテ、間丘陵ノ起伏スルアルモ、地學
 ニ謂フ所ノ波狀地ニ過キス、海濱ノ著名ナル地ハ、岩船

浪波町

浪波町

浪波町

町千人約七百ニアリ、亦一小邑ナリ、郵便局アリ、瀬波町約一
 百一アリ、海港ナリ、船舶ノ出入繁ナリ、三面川ノ河口ヨ
 リ、羽前境ノ鼠鬮ニ至ル迄、ノ海岸一帯ヲ海付浦ト名ツ
 ク、高山ニ近ク海ニ迫マルヲ以テ、海岸斷崖峭立、岌角突
 出、奇觀アリ、暗礁多ク海面ニ隱見シ、舟行危険ナリ、溪流
 ハ皆長カラス、所謂奔湍ニ過キサナルナリ、其稍大ナル者
 ナ葡萄川・中村川・大川トス、羽前街道ハ、村上ヨリ川三面
 ナ渡リ山間ニ通ス、甚寂莫タル山路ナリ、途中葡萄峠ノ
 險アリ、中村ニ至リ二條ニ別ル、一ハ中村川ニ沿フテ下
 リ、勝木驛ニ至テ海濱ニ沿ヒ、府屋驛ヲ過キテ、羽前鼠鬮
 ニ通ス、本道ナリ、一ハ荒川・中繼・小俣等ノ山村ヲ經テ、羽
 前西田川郡コナバ小名邊ニ出ツ、徑路ナリ、瀬波港ノ海上七里

浪波町

浪波町

浪波町

浪波町

浪波町

浪波町

二尺

國道一二號十

北國道下高田川郡境山縣越至中國

高田 二里 間十 八尺 丁 大豆 中屋 敷 五里 十 四里 二 尺 丁 長濱 十二

能生 三二 間里 尺一 有 間 川 五里 一 三 間 五 尺 丁 名 立 十三 四里 二 尺 丁 四

尺 青海 五二 間里 尺一 丁 凝 屋 敷 十二 間 八 尺 丁 尺二 外 糸 魚 川 五里 間 四

市 振 五九 間里 尺一 丁 富 山 縣 越 中 國 下 新 川 郡 境 村 境 合

十九里 二十三丁 五十三間一尺

縣道

米澤街道 新 沼 垂 二里 五二 間 四 尺 丁 內 島 見 十三 里 間 六 五 丁 尺 四

新瀧 二 尺 六 沼 垂 二 里 五 二 間 四 尺 丁 內 島 見 十三 里 間 六 五 丁 尺 四

新發田 六 一 間 里 三 六 尺 丁 三 日 市 十三 里 八 間 五 三 尺 五 中 條 丁 一 二 里 四

一 尺 間 黑 川 三 二 里 八 三 間 一 三 尺 丁 大 島 十 三 里 間 二 尺 四 上 關 里 三

二 尺 間 一 尺 二 十 山 形 縣 羽 前 國 西 置 賜 郡 玉 川 驛 境 合 二 十

里 二 二 丁 二 十 間 四 尺 若 松 街 道 新 發 田 沼 田 郡 境 玉 川 驛 境 合 二 十

新發田 十二 三 間 一 三 尺 三 五 十 公 野 十 二 里 間 十 二 尺 丁 山 內 四 一 里

間 五 尺 一 赤 谷 八 一 間 里 三 五 尺 丁 綱 木 六 一 間 里 三 十 一 尺 丁 新 谷 十 二

間 四 尺 十 行 地 十 二 里 間 十 三 六 尺 丁 寶 坂 五 十 里 間 四 丁 八 尺 丁 新 谷 十 二

山 二 十 一 四 間 丁 鳥 井 丁 一 二 里 間 七 寶 坂 五 十 里 間 四 丁 八 尺 丁 新 谷 十 二

十五里 二十四丁 五十六間二尺

三國街道 香 日 郡 永 井 關 十一 五 里 間 十 三 六 尺 丁 三

六日町 三 五 尺 三 鹽 澤 二 一 里 四 三 間 五 二 尺 丁 關 十一 五 里 間 十 三 六 尺 丁 三

湯澤十二里五丁二
 三俣十二里八丁五
 二居十二里四丁四
 五尺間 淺貝十一里六丁二
 群馬縣上野國吾妻郡永井
 驛境合十二里十五丁三十五間一尺

直江津ヨリ五智ニ至ル分線
 直江津三十一間二尺五
 五智

沼垂ヨリ村上ニ至ル分線

沼垂四十里九丁二
 松崎二十里一丁三
 島見濱三十一里七丁
 次第濱二十二里五丁
 藤塚濱三十一里一丁三
 村松濱四十九里
 同 中村五里七丁
 荒井一里二丁
 桃崎十二里八丁四
 鹽
 谷二里一丁三
 岩船十一里九丁
 瀬波十二里七丁三
 村上
 合十三里三丁三十七間四尺

庄内街道田黒川部鼠ヶ山關驛縣境前至ル四

黒川十二里四丁
 平林二十里六丁三
 村上十二里八丁八

猿澤十一里九丁五
 鹽町四里八丁五
 葡萄十二里

同 五十四里
 中村十二里三丁四
 勝木二里九丁三

屋十一里六丁二
 山形縣羽前國西田川郡鼠ヶ關驛境合十

九里十五丁五十九間三尺

五十公野ヨリ長岡ニ至ル分線

水原十一里八丁九
 分田二里一丁三
 新津十二里七丁五

矢代田五里四丁二
 田上四里一丁七
 加茂三丁四

合二十二里三十一丁三十二間五尺

新津ヨリ加茂ニ至ル分線

新津 十二里 間十九尺丁
五泉 丁一里 三十三間四
村松 十三里 間四三尺五
黒水 二十里 間八丁
加茂・合八里 三十一丁五尺

分田 間二里 尺十二
五泉
分田ヨリ五泉ニ至ル分線

黒川ヨリ桃崎ニ至ル分線

黒川 丁一里 三十三間三
金屋 三十三間丁
桃崎・合二里 二十丁
五十間

氷原ヨリ龜田ニ至ル分線

氷原 十三里 間七丁

龜田

新津ヨリ沼垂ニ至ル分線

新津 八里 間三尺十
龜田 十二里 間七丁
沼垂・合四里 八丁十四
間三尺

大野ヨリ三條ニ至ル分線

大野 丁一里 三十五間四
酒屋 三十三間四丁
小須戸 丁五里 間一

三條・合九里 十四丁五十九間

内野ヨリ小千谷ニ至ル分線

内野 二里 一十三間五尺丁
増根 一十一間八丁
卷 五里 二間九丁

吉田 丁二間 十五里五尺丁
地藏堂 十二里 三十五尺丁
奥板 十四里 二

間三十七尺
片貝 一十五里 丁三
小千谷・合十八里 二十九丁四十

間三尺

柏崎ヨリ川口ニ至ル分線

柏崎 丁二里 四十三間五
北條 五里 四十七丁
塚山 丁五里 間十六

小千谷 丁七里
川口・合九里 三十丁四十二間

三條ヨリ寺泊ニ至ル分線

合四里三丁五十間三尺

青海ヨリ信濃國松本ニ達スル線路

青海七間三尺丁 大谷内ニ十里三丁 下小瀧九間三尺

上小瀧丁一里三間十 山坊十一里丁 信濃國北安曇郡湯

原村境合七里六丁六間

沿革零史

古ハ越前以北、本國ニ至ル、總テ高志國ト稱ス、後分テ越前・越中・越後ノ三國ト爲シ、國府ヲ頸城郡ニ置ク、直江津府ニ國分ル處ナリ即古國延曆十七年、本國ノ田若干ヲ朝原内親王ニ賜フ、是ヲ賜封ノ始トス、寛弘・長和ノ際、鎮守府將軍平維茂・邑ヲ頸城郡ニ食ム、子繁茂、秋田、城介ニ任ス、因テ城氏ト稱ス、養和元年、其玄孫資長ニ至リ、平宗盛、奏請

シテ國守ニ任ス、幾モナクシテ卒ス、壽永九年、弟長茂任ナ嗣キ、木曾義仲ヲ信濃ニ討テ敗走シ、義仲自、國主ト稱ス、元暦元年、義仲亡ヒ、文治元年、城義資ヲ國主ニ任ス、二年、源頼朝ニ降ル、正治三年、城長茂謀叛シテ誅ニ伏シ、其從子資盛、鳥坂ノ頸城郡邊ニ據テ叛ス、佐々木盛綱、伐テ之ヲ平ク、功ヲ以テ守護トナル、邑ニ賜フ治ノ承久三年、北條朝時ヲ以テ守護トス、建武元年、新田義貞ヲ國守ニ任ス、延元ノ初、足利尊氏、上杉朝房ヲシテ守護ヲラシム、貞和三年、高師泰ヲ國守ニ任ス、貞治三年、足利義詮、上杉憲顯ヲ守護トス、爾後之ヲ世襲シテ春日山ニ治ス、永正六年、家宰長尾爲景、其主上杉房能ヲ弒シテ國ヲ奪フ、七年、上杉定實、城上條ヲ迎ヘ陽尊シテ主トス、十九年、定實卒シ、弟

兵要地誌

大日本之軍事之四十二目錄

佐渡國誌

總論

山論

流水及海扇

交通路

沿革畧史

一

一

二

四

五

丁

丁

丁

丁

丁

兵要地誌

日本部

越後國誌

兵要地誌 大日本之部卷之四十二

陸軍教授三木信近 纂述

佐渡國誌

總論

佐渡國ハ、越後ノ海上、西北、水程十五里越後寺泊港ヨリ
 ニ在ル一孤島ニシテ、北緯三十八度ノ緯線、其中央ニ
 亘ル、廣袤ハ、東西約七里余、南北約十一里、周圍約五十三
 里十町五十二間半、之ヲ區劃シテ三郡トス、加茂郡ハ北
 ニ在リ、羽茂郡ハ西南ニ在リ、雜太郡ハ西ニ在リ、今三郡
 ナ合シ、相川ニ治ス、人口約十萬五千八百四十二明治十
 四年ノ調査ニ據ルニ、地勢ハ、全國ノ形幾、鼓ヲ欸ツカ如ク、南北ハ潤大
 ニシテ、山嶺重疊シ、中央ハ漸ク狹ク、港灣ヲ左右シテ、纒

ニ平夷ナリ、全島山國ニ屬シ、河脈甚少シ、平地稀レニ、開墾者ト至ラス、而シテ金銀ヲ產出スル皇國ノ最アリ、居民耕作漁獵ヲ勉メ、又採鑛ヲ業トス、氣候ハ、酷暑約九十度、極寒約三十度、四季陰晴定マラス、冬日常ニ雪深シ、風濤殊ニ險惡ナリ

物産ノ巨ナル者 山ハ金、銀、其他諸金屬、水晶、瑪瑙、木林、藥品ヲ出シ、海ハ珊瑚、鱈、鮑、鱒、魚、賊、鱈、河豚、海鼠、海草ヲ産ス、製造物ハ、裂織、瑪瑙細工、鑄物細工等ナリ

山論

山脈二條アリ、其ニ西南ヨリ東北ニ斜ニ連亘ス、遠方ヨリ遙カニ之ヲ望メハ、恰モ二島ノ如クニ見ユ、大佐渡・小佐渡ノ稱、蓋シ思ヨリ出ツ、其南脈ハ較低シ、西・澤崎ニ起

經塚山

檀風城址

東福城址

天狗塚山

金北山

五月雨山
檀特山
金剛山

リ、東・濡木岬ニ盡ク、脈中經塚山アリ、北・雜木郡ヲ界ス、經塚山ノ北麓ニ竹田村アリ、村ニ檀風城、及東福城ノ古址アリ、本間氏ノ居リシ處ナリ、飯豐山アリ、雜木郡其形、飯ヲ盛ルカ如シ、故ニ名ツク、一頭山アリ、加茂・雜木・羽茂ノ三郡ニ跨ル、其東北ニ米山アリ、又經塚山ノ南ニ天狗塚山アリ、獨、海邊ニ在テ脈外ニ觸起ス、舟子以テ目標トス、其北脈ハ、城ノ鼻ニ起リ、彈崎ニ盡ク、脈中經塚山アリ、其狀笠ヲ戴クニ似タリ、金北山アリ、海面ヲ拔ク、約四千尺、雜木・加茂ノ二郡ニ跨ル、國中第一ノ峻山ナリ、山間礦蜜甚多シ、今現ニ二十四坑アリ、此ヨリ東北ニ五月雨山・檀特山・金剛山アリ、綿亘起伏ス

沈水及海岸

羽茂川

羽茂川

流ノ稍大者、羽茂郡ニ羽茂川、一名湊川アリ、源ナ外山村山中ニ發シ、山間ノ溪流ヲ合シ、南ニ流レテ、西方、清土岡兩村ノ間ニ至テ海ニ入ル、長六里六丁、濶二十四間、河口ノ西ニ小木三ノ口約アリ、海港ナリ、左右各港灣ヲ爲ス、右ナ内灣ト云ヒ、左ナ外灣ト云フ、城山ノ岬、二灣ノ間ニ斗出シ、近海暗礁鮮カラスト雖、灣内水深ク、碇泊ニ便ナルヲ以テ、船舶常ニ輻湊ス、郵便局アリ、小木ヨリ東松崎ニ至ル、沿岸一帯ヲ前嶺ト稱ス、赤泊港アリ、海ヲ隔テ、越後ノ寺泊ト正對ス、灣内水深ク、亦良港ナリ、其越後ニ來往スル者、亦程ノ最近キヲ以テ、必ス針路ヲ此ニ取ル、其東ニ多田港アリ、泊舟ノ便赤泊ニ亞ク、更ニ東北六丁余ニ永津港アリ、其北ニ壽木岬アリ、彈崎ト南北相望

赤泊港

赤泊港

夷町

加茂湖

内海府浦

外海府浦

ミ、一大灣ヲ爲ス、灣内ニ四十餘ノ暗礁アリ、處々ニ散在ス、灣底ニ夷町千八百約一湊、町千九百約一ノ二港、俗ニ兩津アリ、港内深穩、碇泊ニ便アルヲ以テ商船湊集シ、市街繁華ナリ、加茂湖又名越湖、其間ニアリテ、狀囊ノ如シ、周圍凡五里、湖口海ニ通シ甚狹シ、架スルニ一橋ヲ以テス、長僅ニ十七間、左ナ夷町トシ、右ナ湊町トス、遂ニ羽前ト相對ス、税關出張所、郵便局アリ、夷町ノ北ニ梅津川アリ、源ヲ金剛山ノ南ヨリ發シ、東流シテ梅津村ニ至リ、海ニ入ル、夷町ヨリ北、鷺崎ニ至ル、沿岸一帯ヲ内海府浦ト稱シ、鷺崎ヨリ、雜太郡戸中ニ至ルヲ外海府浦ト云フ、兩浦ノ際、山水相啮ミ、島嶼差出、道路危險ニシテ、人馬甚難メリ、外海府浦ニ石名川加茂アリ、檀特山ヨリ發ス、入川加茂

廻津港

相川町

眞野灣

澤根

河原田町

アリ、金北山ヨリ出ツ、石花川アリ、金北山ヨリ下ル、俱ニ北流シテ海ニ入ル、石花川ノ西南ニ廻津アリ、海港ナリ、其南ニ濁川ノ小流アリ、川口ニ相川人口約一萬二千アリ、國ノ西岸ニ臨ム、國中第一ノ都邑ニシテ、始審裁判所・治安裁判所・工部省鑛山分局所製 郵便局・郡役所本國三郡管治ス 警察署・病院等アリ、市街頗ル繁盛ナリ、相川ノ南ニ城眞野アリ、田切須羽ト東西相對シ、一ノ海灣ヲ抱ク、之ヲ眞野灣ト稱ス、西方遙ニ能登國珠洲岬ヲ望ム、灣ノ西岸ニ澤根二見ノ二港アリ、其澤根ハ古澤根城ノ在リシ處ナリ、澤根ノ海中ニ巨大ノ暗礁アリ、之ヲ高瀬ト云フ、澤根ノ東ニ石田川アリ、源ヲ山田村山中ニ發シ、東流シテ石田村ヲ經、八幡町ニ至リ、眞野灣ニ注ク、河口ノ西ニ河原田

國府川

千人口約二アリ、郵便局アリ、商賈輻湊シ、市街殷賑ナリ、古城寨アリ、本間氏、世々之ニ居レリ、天正十七年、本間高貞、上杉氏ノ將、藤田・安田等ト戰ヒシ古戰場ナリ、徳川氏ニ至リ奉行ヲ置キ、此古城ニ治セシメテアリ、其東ニ國府川アリ、源ヲ加茂郡新穂村ニ發シ、南北ノ二山脈ヨリ下ル、數多ノ溪流ヲ集メ、四日町ヲ經テ眞野灣ニ入ル、川ノ南、羽茂郡ニ接スル所ニ眞野宮社アリ、順徳帝ノ寶劍ヲ奉祀ス、是ヨリ東南數町ヲ距テ、山陵アリ、田切須、岬ノ南ニ、西三川アリ、西三川驛ニ至テ海ニ注ク、水源ニ砂金山アリ、砂金ヲ産出ス

交通路

縣道

赤泊ヨリ相川ニ至ル路線
 赤泊十四里丁二 新町十一里九丁 河原田三十一里三丁 澤根
 二十里五十四丁 相川合八里十三丁九間
 新町ヨリ小木ニ至ル分線
 新町里四 西三川四里一三丁 小木合六里三丁四十一間
 河原田ヨリ夷町ニ至ル分線
 河原田丁三十四 下中興九里十 吉井四里五丁十 夷町
 合四里二十一丁八間
 其他新町ヨリ 畑本郷里二 新穂里二 港町ニ至ル通
 路アリ又赤泊ヨリ海岸ニ沿フテ里二 多田里三 赤玉里三
 丁十四 水津九里丁里 港町ニ至ル通路アリ又赤泊ヨリ天
 狗塚山ノ北麓ヲ超ヘテ真野灣邊ニ出テ新町ニ至ル道

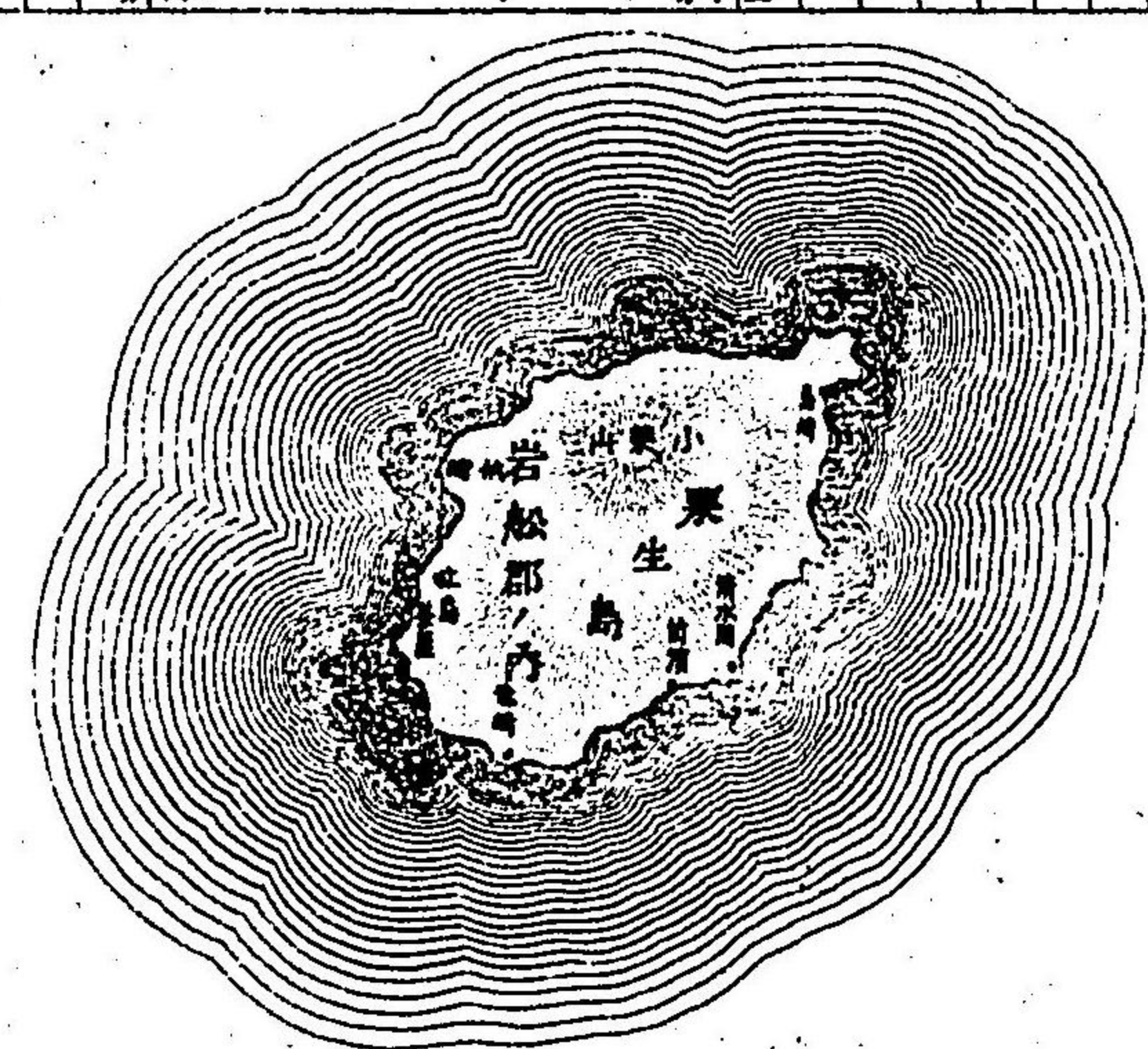
丁四里三十四丁アリ、内海府浦ニ夷町ヨリ里四 浦川七丁里
 鷺崎ニ至ル通路アリ、外海府浦ニ鷺崎ヨリ里三 真更川
 十三里丁三 小田五丁里十 後尾里三 姫津里二 相川ニ至ル
 通路アリ

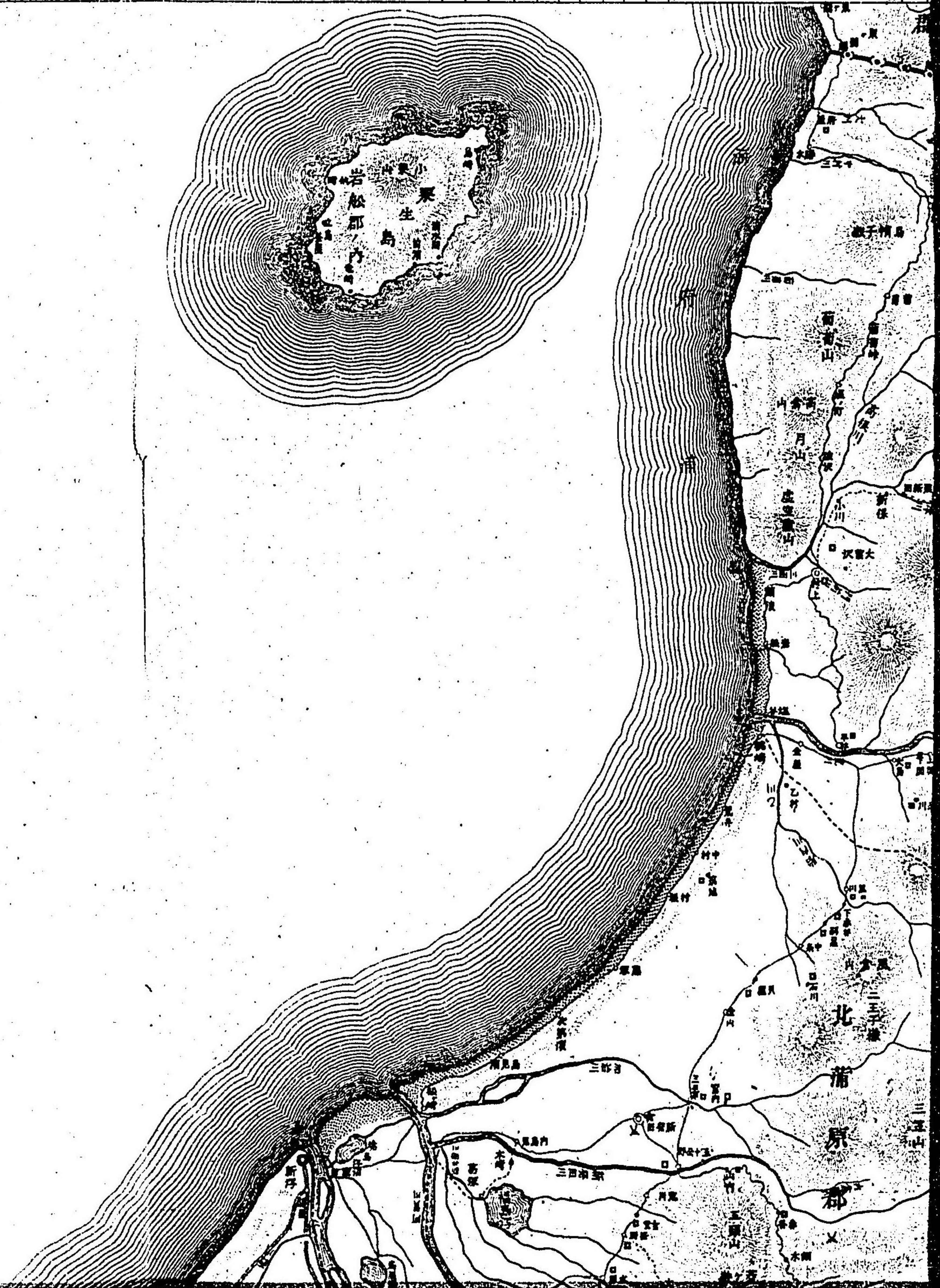
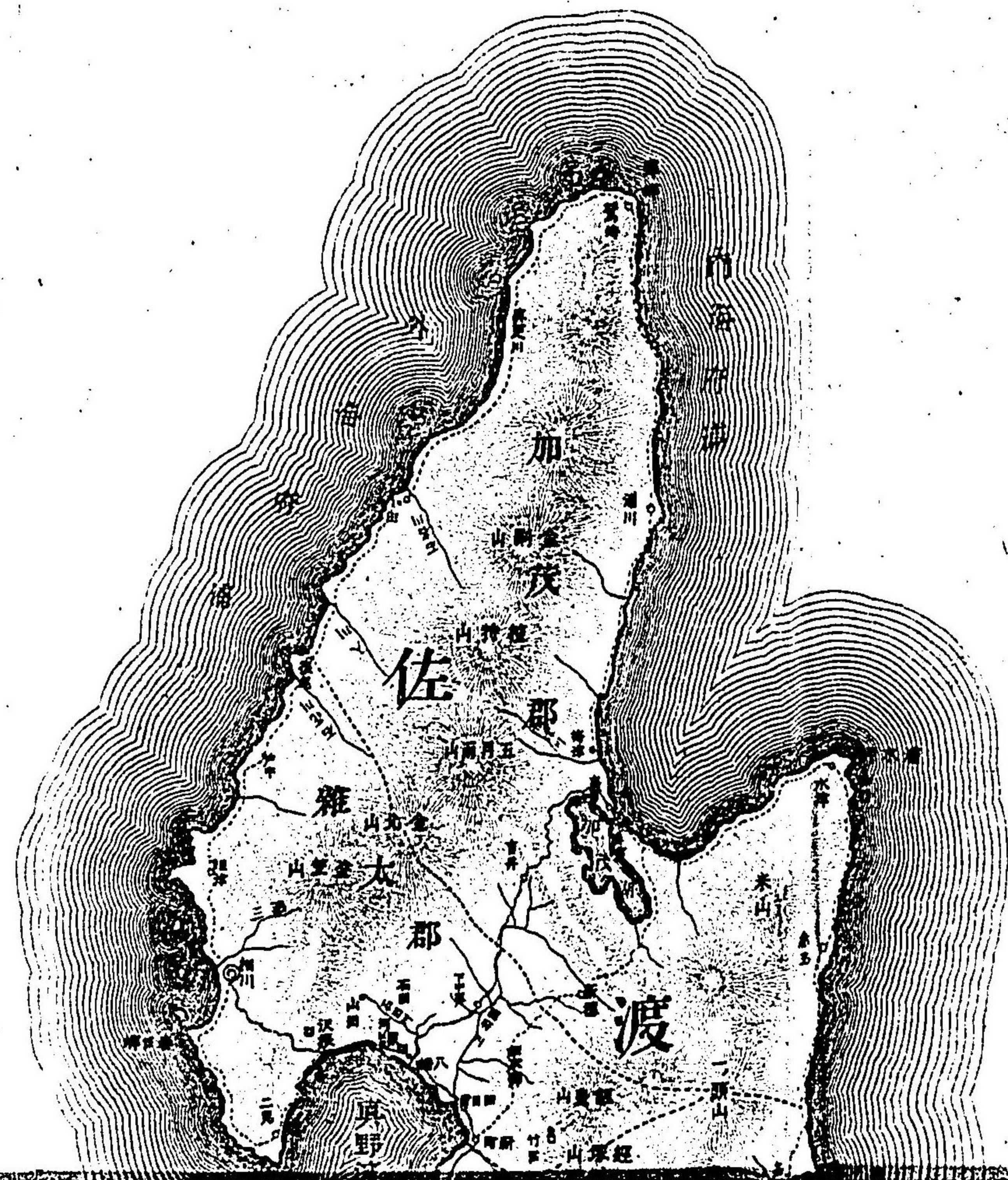
沿革零史

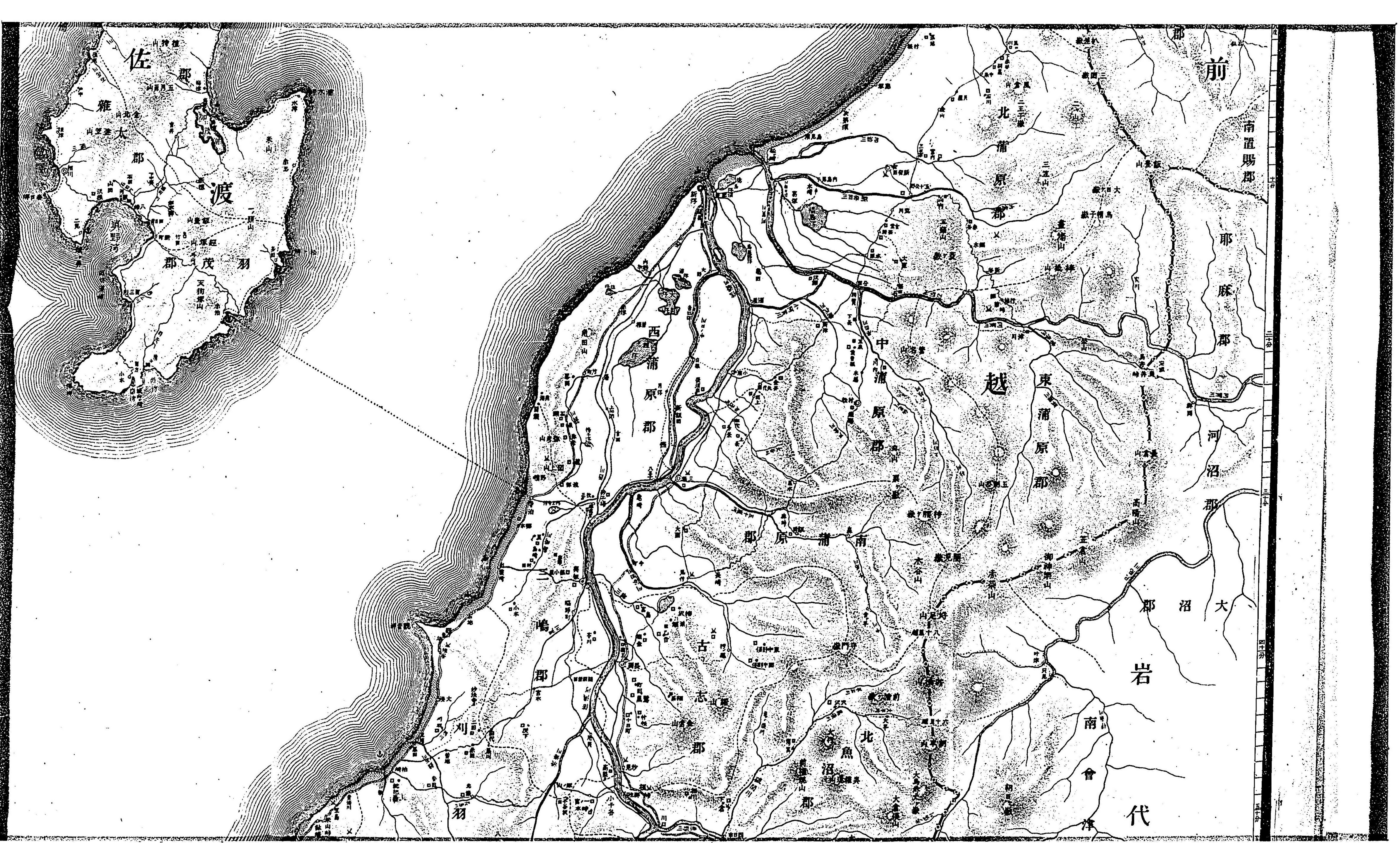
古、國府ヲ雜太郡ニ置ク、養老元年、雜太郡ヲ割テ、更ニ加
 茂・羽茂ノ二郡ヲ置ク、天正十五年、越後ニ隸シ、天平勝寶
 四年、復別レテ一國ト爲ル、鎌倉府ノ初、播磨人、本間能忠
 來テ國府ニ居リ、世々澁谷・藍原・土屋ノ三氏ト、各地頭ト
 ナル、承久三年、北條義時、順德帝ヲ雜太郡和泉村ニ遷シ、
 仁治三年ニ至テ崩ス、後、本間氏守護ヲ領シ、徙テ河原田
 郡 雜太ニ居リ、同族分レテ、澤根 郡 羽茂 郡 新穂 郡 加茂 郡 數

邑ニ居ル、天正五年、上杉輝虎、小木港ニ上陸シ、伐テ之ヲ降ス、義子景勝封テ製フニ及シテ、本間・瀧上・澤根・羽茂ノ四氏、本土ヲ四分シテ、自擅ニシ、約束ヲ受ケス、十七年、景勝將ヲ遣リ、本間・瀧上ヲ擊テ其族ヲ殲シ、澤根・羽茂ヲ降シテ、其采邑ヲ越後ニ移シ、全國ヲ併有ス、慶長ノ初、豊臣秀吉景勝ヲ會津ニ移封シ、吏ヲ遣テ國事ヲ管セシム、關原役後、徳川氏奉行ヲ置キ、河原田ノ古城ニ治ス、後相川ニ徙ス、王政維新、佐渡縣ヲ置キ、既ニシテ改テ相川縣ト稱ス、明治六年一月、第一軍管東京鎮台、第三師管ニ編入シ、明治九年、相川縣ヲ廢シテ、新潟縣ニ合シ、明治十七年一月、銚台疆域ノ改正アリ、第一軍管、仙台鎮台、第三師管ノ管域ニ屬ス

分十二 分十一 分十 分九 分八 分七 分六 分五 分四 分三 分二 分一 中







佐

前

渡

南置賜郡

郡 茂 羽

耶 麻 郡

西 浦 原 郡

中 浦 原 郡

越

東 浦 原 郡

河 沼 郡

郡 原 浦 南

郡 沼 大

鳴 郡

古 志 郡

岩

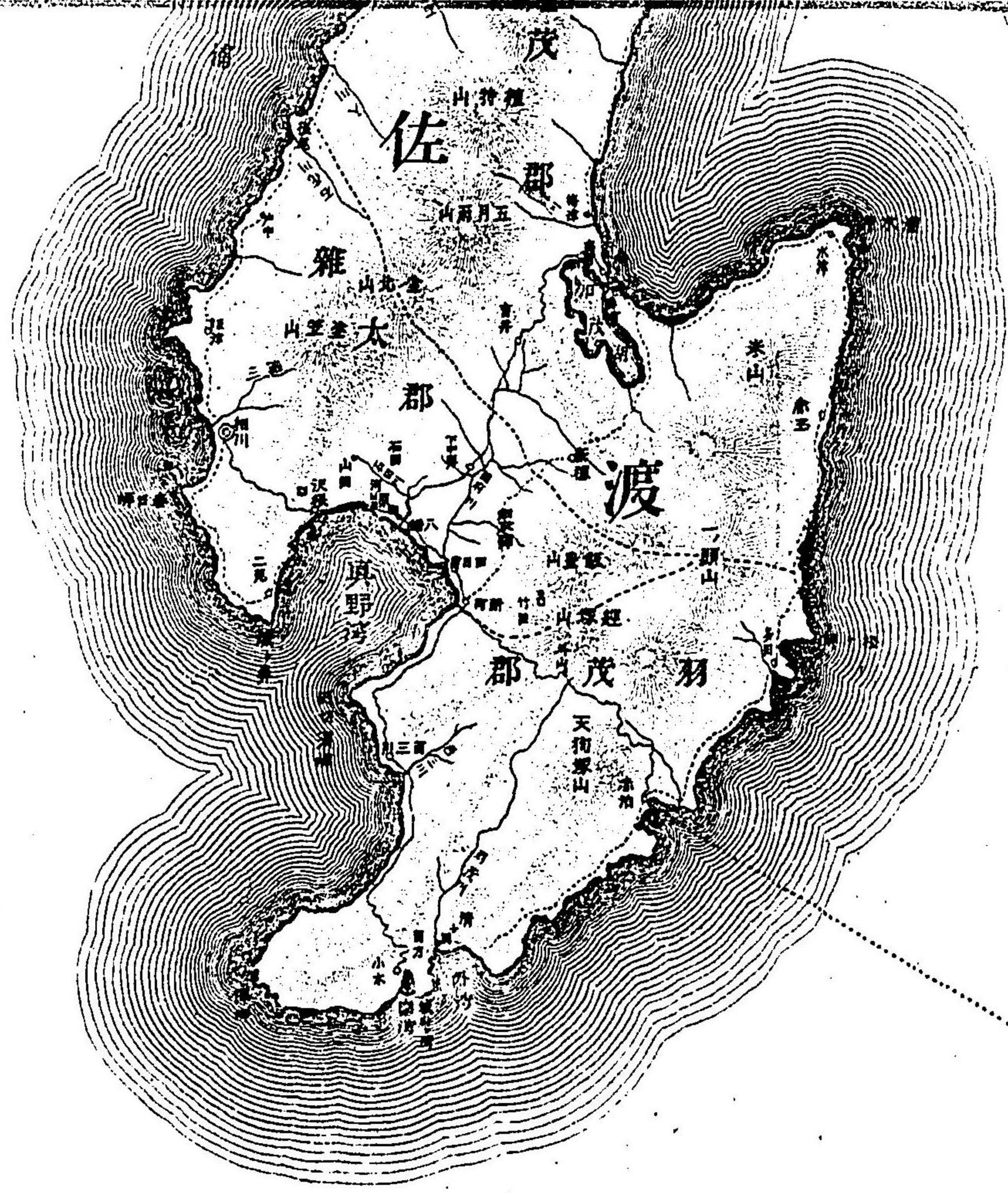
川

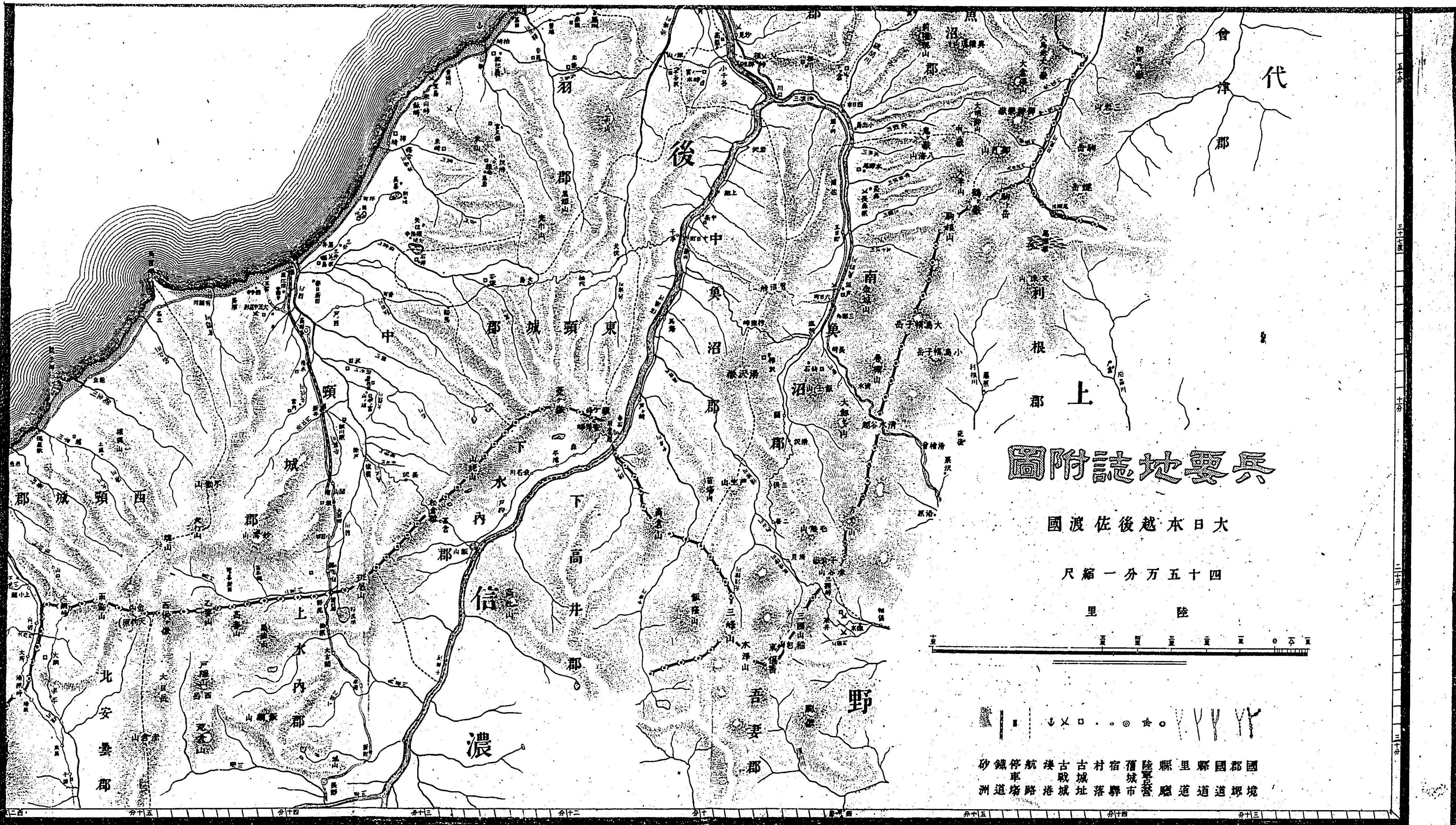
北 魚 沼 郡

南 會 津 郡

羽

代



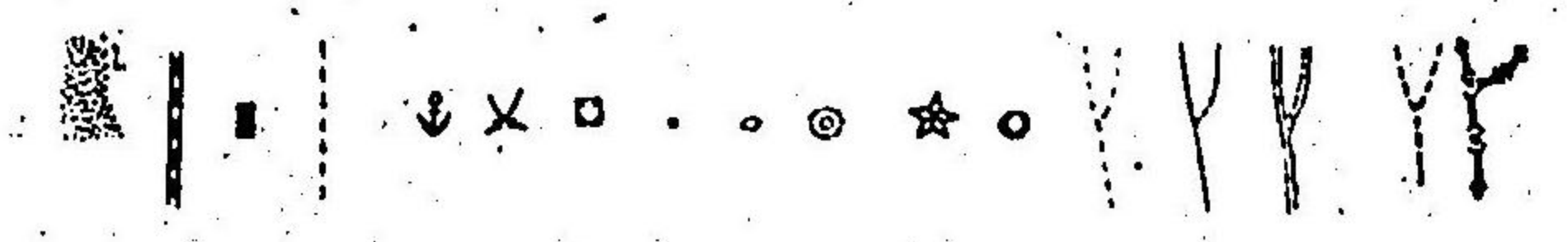


圖附誌地要兵

國渡佐後越本日大

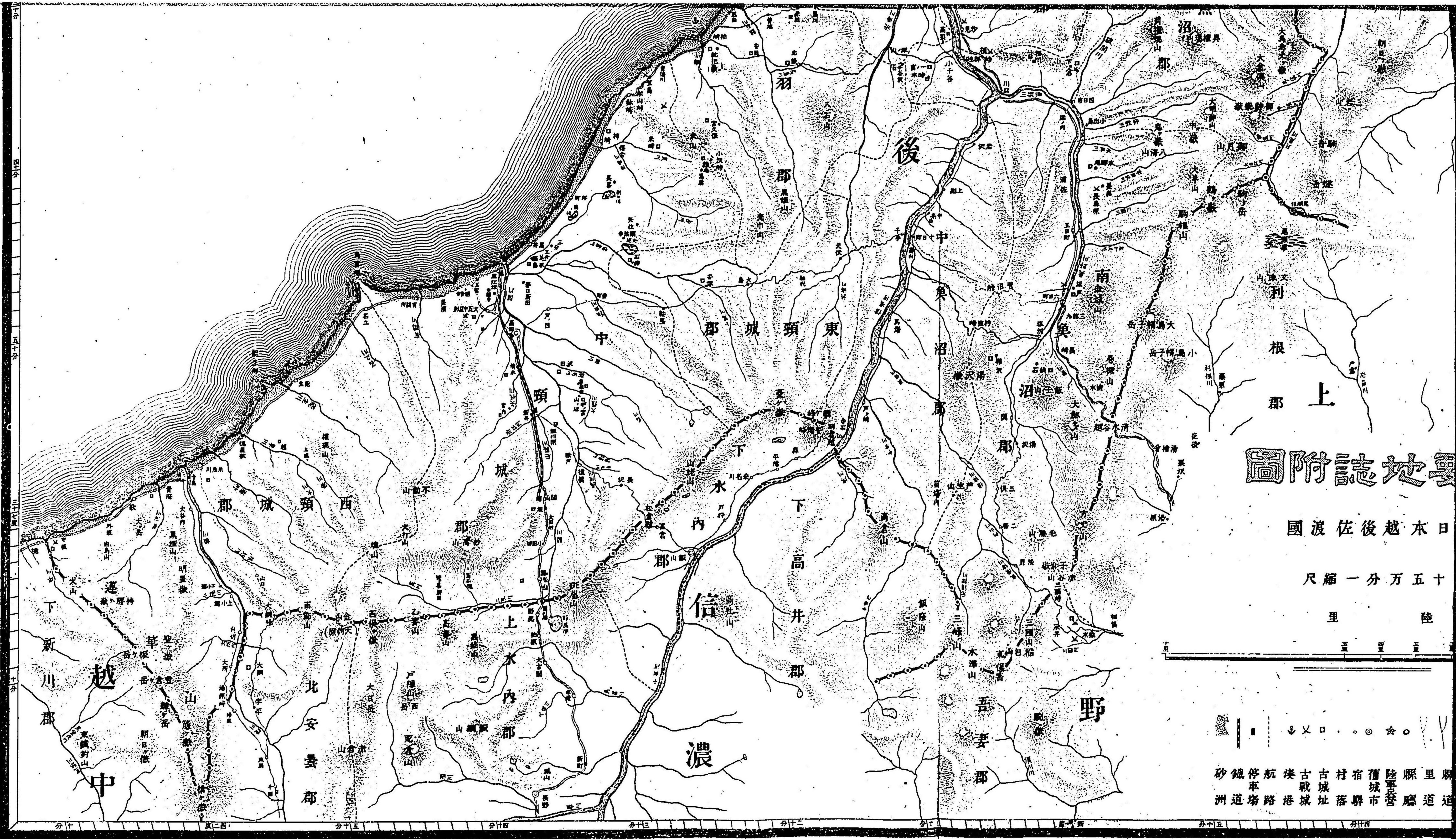
尺縮一分万五十四

里陸



砂鐵停航漢古古村宿宿宿縣縣里縣國郡國
 洲道塔路港城址落驛市營廳道道道塚境

明治二十一年二月



要地誌附圖

日本越後佐渡國

五十分之一縮尺

縣 里 町 村 宿 舊 陸 縣 里 縣
 廳 道 市 鎮 落 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址
 鐵 道 埠 頭 航 港 古 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址
 砂 鐵 埠 頭 航 港 古 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址 古 城 址

分十 分十五 分廿四 分廿三 分十二 分十五 分十四

版權登錄

陸軍士官學校版權所有
明治廿一年十月二十五日印刷
同 年十一月二日出版
(定價金拾五錢)

東京京橋區山下町六番地
東京府土族

發行者 宇津木信夫

同 區同 町七番地
內外兵事新聞局

印刷者 右 同人

東京

發行所 內外兵事新聞局

